

1. 九州工業大学情報工学部学修細則

〔平成 8 年 12 月 18 日〕
九工大情報工学部細則第 8 号

(目的)

第 1 条 この細則は、九州工業大学学則（平成 19 年九工大学則第 1 号。以下「学則」という。）第 1 章第 5 節（修業年限、在学期間、教育課程、履修方法等）及び第 7 節（卒業及び学位）に基づき、情報工学部における教育課程の編成、その履修方法、修了の要件、単位の授与等に関し、必要な事項を定めるとともに、学則第 29 条第 1 項第 4 号に規定する除籍を情報工学部において適用する上で必要な事項を定めることを目的とする。

(履修区分)

第 1 条の 2 次に掲げる学科に、それぞれ履修上の区分として、コースを置く。

学 科	コ ー ス
知能情報工学科	データ科学コース
	人工知能コース
	メディア情報学コース
情報・通信工学科	ソフトウェアデザインコース
	情報通信ネットワークコース
	コンピュータ工学コース
知的システム工学科	ロボティクスコース
	システム制御コース
	先進機械コース
物理情報工学科	電子物理工学コース
	生物物理工学コース
生命化学情報工学科	分子生命工学コース
	医用生命工学コース

2 前項に掲げる学科に所属する学生は、当該学科におかれているコースのいずれかの一つを履修しなければならない。

3 コースの決定の方法については、別に定める。

(履修区分の変更)

第 1 条の 3 第 1 条の 2 第 1 項に掲げる学科に所属する学生で学科内のコースの変更を願い出た者については、別に定める方法により審査のうえ、情報工学部長が変更を許可することがある。

(学習・教育到達目標)

第 2 条 情報工学部は、九州工業大学が掲げる「技術に堪能なる士君子の養成」という教育到達目標を、情報工学の分野において実現するための教育を行う。

2 情報工学部は、この教育到達目標を各々の教育分野において実現するため、第 5 条第 2 項及び第 3 項ごとに学習・教育到達目標を具体的に設定し、広く学内外に公表する。

3 情報工学部は、前項により設定する学習・教育到達目標の達成状況に関して、定期的に点検と評価を行い、その結果を広く学内外に公表する。

4 情報工学部は、学部の教育に対する社会の要求や学生の要望を把握するための調査を行い、前項の点検と評価の結果と合わせて、学習・教育到達目標の見直しを行う。

(教育課程)

第 3 条 教育課程は、学習・教育到達目標に基づいて設計し、学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目を開設する。

2 情報工学部は、学部の教育に対する社会の要求や学生の要望に関する調査の結果及び学習・教育到達目標の達

成度に関する点検と評価の結果を踏まえて、教育課程の見直しを行う。

(授業計画)

第4条 授業計画（シラバス）は、情報工学部が開設する各々の授業科目について、各開講年度ごとに作成し、広く学内外に公表する。

- 2 授業計画には、授業の概要、教育課程における位置付け、授業方法、授業時間ごとの内容、達成されるべき目標、成績評価の基準及び方法、授業外学習（予習・復習）の指示、教科書等を記載する。
- 3 各授業科目の担当教員（以下「授業担当教員」という。）は、授業計画に基づいて授業を実施し、記載された成績評価の基準及び評価方法により成績評価を行う。
- 4 情報工学部は、授業アンケート等により得られる学生の意見や要望及び学習・教育到達目標の達成度に関する点検と評価の結果を踏まえて、授業計画の見直しを行う。

(履修課程表)

第5条 情報工学部の教育課程が開設する授業科目は、教養教育科目区分、基礎科目区分、情報技術者科目区分及び専門科目区分の4つの科目区分に分類される。

- 2 教養教育科目区分は、学部共通の教育課程であり、その履修課程表は別表1のIに定める。
- 3 基礎科目区分、情報技術者科目区分及び専門科目区分は、各学科が個別に編成する教育課程であり、その履修課程表は、別表1のIIに定める。
- 4 前2項の規定にかかわらず、3年次編入生のための履修課程表は、別表2に定める。

(授業科目の単位区分及び履修年次)

第6条 教育課程の編成に基づいて、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び選択科目の3つの単位区分に分類し、また、各授業科目を1年次から4年次までの各履修年次に配当する。

- 2 学生は、自分が在籍する年次を超える履修年次の授業科目を履修することはできない。
- 3 学生は、曜日と時限が同一なる授業科目を重複して履修することはできない。

(教育課程の修了要件)

第7条 情報工学部における教育課程を修了するには、4年以上在学（休学及び停学した期間を除く。以下本条及び次条において同じ。）し、第5条に定める履修課程表に従って授業科目を履修し、別表3に定める単位数を修得しなければならない。

- 2 3年次編入生が情報工学部における教育課程を修了するには、2年以上在学し、第5条に定める履修課程に従って授業科目を履修し、別表4に定める単位数を修得しなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、別に定める九州工業大学情報工学部における早期卒業取扱要項（平成12年10月25日制定）の早期卒業の要件を満たす場合には、3年以上の在学により情報工学部における教育課程を修了することができる。

(進級の要件)

第8条 学生は、1年次から2年次に進級するためには、1年以上在学し、別表5に定める2年次進級要件を満たさなければならない。

- 2 学生は、2年次から3年次に進級するためには、2年以上在学し、別表5に定める3年次進級要件を満たさなければならない。
- 3 学生は、3年次から4年次に進級するためには、3年以上在学し、別表5に定める4年次進級要件を満たさなければならない。
- 4 3年次編入生は、4年次に進級するためには、3年次に1年以上在学し、別表6に定める4年次進級要件を満たさなければならない。
- 5 前4項の規定にかかわらず、病気による休学又は留学等の正当な事由があり、かつ、教育上有益であると教務

委員会が認める場合には、進級の要件を満たしていない場合であっても、上級年次への進級を許可することがある。

(履修登録)

第9条 学生は、各学期において履修しようとする授業科目について、その学期の履修登録期間内に履修登録を行わなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、集中講義又はそれに準じる形態で実施される授業科目については、各授業科目ごとに掲示される履修登録締切り期日までは、履修登録カード(別記様式第1号)を教務係に提出することにより、履修登録を行うことができる。

3 正当な事由により、定められた期間内に履修登録又は修正登録を行うことができなかった場合、学生は所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、期間外履修登録カード(別記様式第2号)を教務係に提出することにより、履修登録又は修正登録を行うことができる。

(履修登録の取消し)

第10条 学生は、履修登録した授業科目の履修を取りやめにする場合には、修正登録後に設定される履修登録取消し期日までに、履修登録取消しカード(別記様式第3号)を教務係に提出することにより、履修登録の取消しを行うことができる。

2 前項の規定にかかわらず、集中講義又はそれに準じる形態で実施される授業科目の場合には、各授業科目ごとに掲示される履修登録取消し期日までは、履修登録の取消しを行うことができる。

3 正当な事由により、定められた期間内に履修登録の取消しを行うことができなかった場合、学生は所属類又は所属学科の教務委員の許可を得た上で、履修登録取消しカードを教務係に提出することにより、履修登録の取消しを行うことができる。

(履修登録の制限)

第11条 学生は、既に修得した授業科目並びに第20条及び第21条の規定により単位認定を受けた授業科目については、履修登録を行うことはできない。

2 学生が年間に履修登録できる科目の総単位数は、44単位(各学期22単位)を上限とする。ただし、集中講義又はそれに準じる形態で実施される授業科目及び教育の基礎的理解に関する科目等については、この単位数の合計には含まない。

3 履修登録する学生数が授業科目の受け入れ限度を超えた場合、一部の学生の履修を許可しないことがある。その場合、学生は授業科目を担当する教員の指示に従って、修正登録期間内に修正登録を行わなければならない。

(履修登録の制限に関する特例)

第12条 学生が第6条第2項に規定する年次より上級の履修年次の授業科目の履修を希望し、かつ、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員が教育上有益であると認めて許可する場合、学生は、上級年次の授業科目の履修願(別記様式第4号)を履修登録期間内に教務係に提出することにより、上級年次の授業科目を履修することができる。ただし、第8条の規定による原級留置(留年)がある学生の場合、2・3年次の学生においては、選択必修科目及び選択科目について、すべての原級留置がないと仮定した年次を在籍年次とみなし、履修登録をすることができる。1年次の学生においては、上級年次の授業科目の履修願(別記様式第4号の2)を履修登録期間内に教務係に提出することにより、上級年次の授業科目を履修することができる。

2 前条第2項の規定にかかわらず、当該年度の前年度のGPA(Grade Point Average)の値が2.7以上の者は、当該学期に履修登録できる総単位数の上限を24単位とする。

(成績評価)

第13条 履修登録を行って履修した授業科目については、授業担当教員が、授業計画に記載されている成績評価の基準及び評価方法により100点満点で成績評価を行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、学生が正当な理由がなく授業科目の総授業時間数の3分の2以上出席していなければ、その授業科目の成績評価は0点とする。
- 3 成績評価を標語で表示する場合には、次の基準による。
 - 秀又はA 90点～100点 達成目標を十分に達成し、極めて優秀である
 - 優又はB 80点～89点 達成目標を十分に達成している
 - 良又はC 70点～79点 達成目標を達成している
 - 可又はD 60点～69点 達成目標を最低限度達成している
 - 不可又はF 0点～59点 達成目標を達成していない
- 4 成績評価に用いられた主要な資料（試験問題、試験答案、レポート課題、提出レポート等）は、成績評価の妥当性を必要に応じて検証するための基礎資料として、国立大学法人九州工業大学法人文書管理規程（平成23年九工大規程第9号）別表第1備考第5項の規定により保存期間5年の文書として取り扱う。
- 5 個別の授業科目の成績評価に対して不満がある場合は、別に定めるところにより、確認及び異議を申し立てることができる。

（単位の授与等）

第14条 成績評価の結果を合否の種別により表示する場合には、次の基準による。

合格 60点～100点

不可 0点～59点

- 2 合格と判定された授業科目については、履修課程表に規定されている単位数が与えられる。
- 3 学生は、合否判定の結果にかかわらず、履修した授業科目の成績評価の取消しを求める事はできない。
（学期末・学年末試験で不可になった場合の措置）

第15条 再試験は、実施しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、授業科目の総授業時間数の3分の2以上の授業に出席して不可となった学生のうち、授業担当教員が必要と認めた学生に対して、試験その他の方法による確認を加えて行い、その結果に基づき成績の修正を行うことがある。
- 3 成績の修正は、その授業科目が開講された学期の成績報告期限内に行い、その学期内に確定した成績評価を学生に通知する。

（他学科の授業科目の履修）

第16条 所属類又は所属学科の履修課程表に含まれない授業科目（他学科科目）の履修を希望する学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、履修登録期間内に所属学科の履修課程表にない授業科目（他学科科目）履修願（別記様式第5号）を教務係に提出しなければならない。

- 2 前項の規定により履修を許可された授業科目は、専門科目区分の選択科目として取り扱われる。

（他学部の授業科目の履修）

第17条 他学部の授業科目の履修を希望する学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、履修登録期間内に他学部の科目の履修願（別記様式第6号）を教務係に提出しなければならない。

- 2 前項の規定により履修を許可された授業科目は、所属類又は所属学科の教務委員の判断によりその授業科目の内容に応じた科目区分の選択科目として取り扱われる。

（大学院の授業科目の履修）

第17条の2 大学院情報工学府の授業科目の履修を希望する学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、履修登録期間内に履修登録カードを教務係に提出しなければならない。

- 2 前項の規定により履修できる授業科目は、別に定める。
- 3 履修登録できる学生は3年次以上の者とし、修得できる単位数は卒業までに15単位までとする。

4 第1項の規定により履修を許可された授業科目は、卒業要件には加算されない。

(教職課程)

第18条 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)による免許状を取得しようとする学生は、別表7に定める教職課程の授業科目を履修しなければならない。

(外国人留学生等の教養教育科目の履修に関する特例)

第19条 外国人留学生等の日本語科目及び日本事情に関する科目の履修及び単位の修得に関しては、九州工業大学外国人留学生等の教養教育科目履修の特例に関する細則(平成5年九工大細則第1号)による。

(他大学等における授業科目の履修及び単位認定)

第20条 他大学等において履修した授業科目で、学則第13条及び第13条の2の規定により、情報工学部における授業科目の履修により修得したと認定される授業科目については、認定された情報工学部の授業科目の科目区分及び単位区分により単位が与えられる。

2 認定された授業科目については、成績評価を行わない。

(既修得単位の認定)

第21条 本学に入学、再入学又は転入学する以前に履修した授業科目で、学則第14条、第22条及び第23条の規定により、情報工学部における授業科目の履修により修得したとされる授業科目については、認定された情報工学部の授業科目の科目区分及び単位区分により単位が与えられる。

2 3年次編入生を対象とした既修得単位の認定に関しては、別に定める。

3 学生は、単位認定取下げ願(別記様式第7号)を教務係に提出することにより、認定された授業科目の認定を取り下げることができる。

4 認定された授業科目については、成績評価を行わない。

5 学則第24条の規定により移籍をした学生の既修得単位の認定は、前項までの規定を準用する。

6 第1条の3の規定によりコースの変更をした学生の既修得単位の認定は、第4項までの規定を準用する。

(GPAによる総合成績の評価)

第22条 学生の総合的な成績は、GPA(Grade Point Average)を用いて評価する。

2 GPAは、学生が履修した全ての授業科目について、評価点(Grade Point)をつけ、この評価点を各々の授業科目の単位数による加重をつけて平均した値である。成績評価を評価点に換算する場合は、次の基準による。

90点～100点 4.0

85点～89点 3.5

80点～84点 3.0

75点～79点 2.5

70点～74点 2.0

65点～69点 1.5

60点～64点 1.0

0点～59点 0

3 第20条及び第21条の規定により単位認定された授業科目並びに卒業要件に加算されない授業科目は、GPAの計算の対象には含めない。

4 同じ授業科目(既に修得した授業科目並びに第20条及び第21条の規定により単位認定を受けた授業科目を除く。)を複数回履修した場合、各々の授業科目の評価点がGPAの計算の対象となる。

(授業アンケート)

第23条 情報工学部は、開講する各々の授業科目について、その授業内容及び授業方法に対する学生の感想や意見、要望を把握し、それを受けて授業内容及び授業方法の改善を図ることを目的として、授業アンケートを実施する。

2 授業アンケートの実施方法その他必要な事項は、別に定める。

(指導教員)

第24条 勉学に関する学生への支援を目的として、各々の学生に対して1人の指導教員を割り当てる。

2 指導教員は、担当する学生に関する教務情報を閲覧することができ、閲覧した情報に基づいて、学生の勉学を助け、学生の勉学意欲の増進を図ることを目的とした助言を行う。

(学力不振者の除籍)

第25条 学生が、連続する2年間(休学期間を除く。)において、30単位以上修得しなかった場合は、学則第29条第1項第4号該当者として取り扱う。ただし、次に掲げる者を除く。

(1) 3年次以上の者

(2) 第8条第2号に規定する要件を満たし、3年次に進級する者

2 前項の規定にかかわらず、疾病若しくは負傷等、特別な理由がある者にあつては、学部長は教務委員会に意見を求めることができるものとする。

(試験における不正行為に対する懲戒)

第26条 試験において不正行為を行った学生に対しては、当該学期に履修登録した授業科目の全部又は一部について、その成績評価を0点とし、単位を与えない。

2 特に悪質な不正行為を行った学生に対しては、前項の措置に加えて、学則第88条該当者として取り扱う。

(雑則)

第27条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則 (最終改正分)

1 この細則は、令和6年4月1日から施行する。

2 この細則の規定にかかわらず、令和6年3月31日に在籍する者(以下「在籍者」という。)及び令和6年4月1日以後に在籍者の属する年次に編入学・再入学・転入学する者に係る教育課程の編成、履修方法、修了要件、単位の授与等については、なお従前の例による。

別表 1 (第5条関係)

I 教養教育院履修課程表

1 教養教育科目

① 人文社会系

区分	授業科目	単 位			授 業 時 数								備 考
		必修	選択必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人	哲 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	哲 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
教	育 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	育 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
一	般 言 語 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	般 言 語 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
文	学 文 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	学 文 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
歴	史 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	史 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
地	域 研 究 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	域 研 究 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
地	理 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	理 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
法	学 法 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	学 法 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
日	本 国 憲 法 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	本 国 憲 法 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
経	済 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	済 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
経	営 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	営 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
社	会 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	会 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
政	治 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	治 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
職	業 と 社 会		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	心 理 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
心	理 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	健康スポーツ科学論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
ス	ポ ー ツ 実 技		1		(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)			戸・飯
科	学 技 術 と 社 会 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	学 技 術 と 社 会 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
家	族 と 社 会		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
環	境 学 I		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	境 学 II		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
自	己 探 求 ・ ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 入 門		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
ア	イ デ ァ 創 出 ・ 思 考 法 入 門		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯

区分	授業科目	単 位			授 業 時 数								備 考
		必修	選択必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
グローバル バ ル 教 養 科 目	異文化間コミュニケーション論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	言語類型論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	西洋近現代史		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	東南アジア文化論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	心理適応論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	東アジア論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	国際関係論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	国際経済論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	国際経営論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	サステナビリティ論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	日本近現代史		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	I C Tと現代社会論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	日本社会論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	科学コミュニケーション論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	市民社会論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
現代健康論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯	
ジェンダー論		1		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯	
人文 社 会 系 選 択 科 目	西洋社会史			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	教育システム論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	経営組織論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	言語分析法			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	情報倫理			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	ゲーム理論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	情報社会と教育			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	情報メディアとコミュニケーション			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	日本政治論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	人文学と言語の地平			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸・飯
	事業創造・スタートアップ入門			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸・飯
	選択日本事情 I A			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	選択日本事情 I B			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	選択日本事情 II A			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	選択日本事情 II B			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
国際協働演習			1									戸・飯 適宜	
計		55	16										

他キャンパスでの科目履修を希望する者は事前に届け出ること。

備考欄の戸、飯はそれぞれ戸畑キャンパス、飯塚キャンパスでの開講予定を表している。

年度ごとの開講キャンパスについては、時間割などで確認すること。

② 言語系

区分	授業科目	単 位			授 業 時 数								備 考		
		必修	選択必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
選択必修 英語科目	英語 I C		1		(2)										戸・飯
	英語 II C		1		(2)										戸・飯
	英語 III C		1			(2)									戸・飯
	英語 IV C		1			(2)									戸・飯
	英語 V C		1			(2)	(2)								戸・飯
	英語 VI C		1			(2)	(2)	(2)							戸・飯
	英語 VII A		1				(2)	(2)	(2)	(2)					飯
	英語 VII B		1				(2)	(2)	(2)	(2)					飯
	英語 VII C		1				(2)	(2)	(2)	(2)					戸・飯
	英語 VII D		1				(2)	(2)	(2)	(2)					戸・飯
	英語 VIII A		1					(2)	(2)	(2)					戸・飯
	英語 VIII B		1					(2)	(2)	(2)					飯
	英語 VIII D		1					(2)	(2)	(2)					戸・飯
	英語 IX A		1						(2)	(2)					戸・飯
	英語 IX B		1						(2)	(2)					飯
英語 IX D		1						(2)	(2)					戸・飯	
科選択 英語 科目	選択 英語 1 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)					TOEIC対策
	選択 英語 2 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)					
	選択 英語 3 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)					
	選択 英語 4 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)					
初修 外国 語 科目	ドイツ語 I		1		(2)	(2)									戸・飯
	ドイツ語 II		1			(2)	(2)								戸・飯
	ドイツ語 III		1				(2)	(2)	(2)	(2)					戸・飯
	ドイツ語 IV		1					(2)		(2)					戸
	中国語 I		1		(2)	(2)									戸・飯
	中国語 II		1			(2)	(2)								戸・飯
	中国語 III		1				(2)	(2)	(2)	(2)					戸・飯
	中国語 IV		1					(2)		(2)					戸
	フランス語 I		1		(2)	(2)									戸・飯
	フランス語 II		1			(2)	(2)								戸・飯
	フランス語 III		1				(2)	(2)	(2)	(2)					戸・飯
	フランス語 IV		1					(2)		(2)					戸
	韓国語 I		1		(2)										戸
韓国語 II		1			(2)									戸	
韓国語 III		1				(2)		(2)						戸	
韓国語 IV		1					(2)		(2)					戸	
計		0	32	4											

キャンパスにより開講される科目・学期は異なる場合があるので、注意すること。

備考欄の戸、飯はそれぞれ戸畑キャンパス、飯塚キャンパスでの開講予定を表している。

開講キャンパスについては、学期毎に掲示などで公表するので注意すること。

他キャンパスでの科目履修を希望する者は事前に所属学部教務係に申請し、許可を得ること。

英語：

* 選択必修英語科目名のⅠ～Ⅸは難易度、A～Dは技能の種別を表しており技能種別の記号（A～D）は、以下の重点技能を表している。Ⅰ～Ⅵの技能はCのみであり、ⅦはA, B, C, D、Ⅷ以降はA, B, Dから選択できる。

A: Writing B: Reading

C: Comprehensive D: Speaking

* 選択英語科目1T～4Tは難易度を表し、通常時間枠または集中講義として開講する。

* 選択必修英語科目Ⅶ以降、選択英語科目は大学院との共通科目である。

* 1年次は学期あたり再履修の科目を除き2科目まで、2年次以降は学期あたりⅦまでは再履修の科目を除き1科目のみ、Ⅷ以降は同レベルの2科目まで履修できる。

* 再履修の科目を除き、単位取得済科目より下位レベルの科目は履修できない。

初修外国語：

* 科目名のⅠ～Ⅳは難易度を表している。どの言語を選択する場合でも、原則として、Ⅰから順に履修すること。

* 1年次の必修2単位を未取得の者を除いて、2年生以上は、原則として1年次開講科目を履修できない。

③ 認定科目

授 業 科 目	単 位			授 業 時 数								備 考	
	必 修	選 択 必 修	選 択	1年次		2年次		3年次		4年次			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
教養教育科目区分認定科目													

II 各学科別履修課程表

情工1類

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数		備 考
	◎:必修・○:選択必修・空欄:選択		1年		
	単位数	学科共通	前	後	
解 析 I ・ 同 演 習	2	◎	3		
線 形 代 数 I	2	◎	2		
離 散 数 学 I	2	◎	2		
解 析 II	2	◎		2	
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	◎		3	
離 散 数 学 II	2	◎		2	
力 学 I	2	◎	2		
電 磁 気 学 I	2	○		2	
化 学 I	2			2	
生 物 学 I	2			2	
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3	
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5		
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2		
情 報 工 学 概 論	1	◎	2		
デ ー タ 構 造 と ア ル ゴ リ ズ ム	2	◎		4	
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2	
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	◎		2	
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1		
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I					選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II					選択科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III					選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV					選択科目の単位として個別に認定する(注)

(注)進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。

情工2類

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数		備 考
	◎:必修・○:選択必修・空欄:選択		1年		
	単位数	学科共通	前	後	
解 析 I ・ 同 演 習	2	◎	3		
線 形 代 数 I	2	◎	2		
離 散 数 学 I	2	◎	2		
解 析 II	2	◎		2	
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	◎		3	
離 散 数 学 II	2	○		2	
力 学 I	2	◎	2		
電 磁 気 学 I	2	◎		2	
化 学 I	2	○		2	
生 物 学 I	2	○		2	
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3	
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5		
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2		
情 報 工 学 概 論	1	◎	2		
デ ー タ 構 造 と ア ル ゴ リ ズ ム	2	◎		4	
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2	
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	○		2	
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1		
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I					選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II					選択科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III					選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV					選択科目の単位として個別に認定する(注)

※情工2類の学生は2年次進級時において、知能情報工学科、情報・通信工学科、物理情報工学科、生命化学情報工学科へ配属となった場合、科目によっては単位区分が変わるため注意が必要。

(注)進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。

情工3類

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数		備 考
	◎:必修・○:選択必修・空欄:選択		1年		
	単位数	学科共通	前	後	
解 析 I ・ 同 演 習	2	◎	3		
線 形 代 数 I	2	◎	2		
離 散 数 学 I	2	◎	2		
解 析 II	2	◎		2	
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	◎		3	
離 散 数 学 II	2			2	
力 学 I	2	◎	2		
電 磁 気 学 I	2	◎		2	
化 学 I	2	◎		2	
生 物 学 I	2	◎		2	
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3	
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5		
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2		
情 報 工 学 概 論	1	◎	2		
デ ー タ 構 造 と ア ル ゴ リ ズ ム	2	◎		4	
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2	
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2			2	
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1		
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I					選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II					選択科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III					選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV					選択科目の単位として個別に認定する(注)

(注) 進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。

1 知能情報工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考
	単位数	学科共通	1年		2年		3年		4年		
			前	後	前	後	前	後	前	後	
解 析 I・同 演 習	2	○	3								
線 形 代 数 I	2	○	2								
離 散 数 学 I	2	○	2								
解 析 II	2	○		2							
線 形 代 数 II・同 演 習	2	○		3							
離 散 数 学 II	2	○		2							
確 率 ・ 統 計	2	○			2						
微 分 方 程 式	2	○			2						
力 学 I	2	○	2								
電 磁 気 学 I	2	○		2							
化 学 I	2			2							
生 物 学 I	2			2							
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	○		3							
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	○	5								
計 算 機 シ ス テ ム I	2	○	2								
情 報 工 学 概 論	1	○	2								
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	○		4							
計 算 機 シ ス テ ム II	2	○		2							
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	○		2							
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	○	1								
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	○			4						
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	○			2						
知 能 情 報 工 学 基 礎 実 験	2	○			4						
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I											選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II											選択科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III											選択必修科目の単位として個別に認定する(注)
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV											選択科目の単位として個別に認定する(注)
合 計	必 修	36									
	選 択 必 修	4									
	選 択	4									

(注) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考	
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		1年		2年		3年		4年			
	単位数	学科共通	前	後	前	後	前	後	前	後		
知的財産概論	2				2							
キャリア形成概論	2				2							
情報技術者倫理	2	◎					2					
情報関連法規	2						2					
情報職業論	2						2					
産業組織論	2						2					
情報産業職業論	2							2				
アントレプレナーシップ入門	1							1				
アントレプレナーシップ演習	1							1				
インターンシップ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。2、3年対象
長期インターンシップ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。2、3年対象
海外研修Ⅰ	1											注)
海外研修Ⅱ	2											注)
海外インターンシップ実習Ⅰ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。2、3年対象注)
海外インターンシップ実習Ⅱ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。2、3年対象注)
合計	必修	2										
	選択必修	0										
	選択	23										

(注) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位				授 業 時 数								備 考
	単位数	データ科学 コース	人工知能 コース	メディア 情報学コース	1年		2年		3年		4年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
論 理 回 路	2	◎	◎	◎			2						
ア ルゴ リズ ム 設 計	2	◎	◎	◎			2						
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	2	○	○	○			2						
応 用 数 学	2	○	○	○				2					
人 工 知 能 基 礎	2	◎	◎	◎				2					
オブジェクト指向プログラミング	3	◎	◎	◎				4					
デ ー タ ベ ー ス	2	◎	○	◎				2					
計 算 理 論	2	◎	○	○				2					
信 号 処 理	2	○	○	◎				2					
プログラミング言語処理系	2	○	○	○				2					
知能情報工学実験演習Ⅰ	2	◎	◎	◎				4					
オペレーティングシステム	2	○	○	◎					2				
情 報 理 論	2	◎	○	◎					2				
メ デ ィ ア 処 理	2		○	◎					2				
人工知能プログラミング	3	◎	◎	○					4				
自 然 言 語 処 理	2	○	◎	◎					2				
人 工 知 能 論 理	2	◎	◎						2				
最 適 化	2	◎	○	○					2				
機 械 学 習	2	○	○	○					2				
深 層 学 習	2	○	○	○					2				
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	2		○	○						2			
知能情報工学実験演習Ⅱ	2	◎	◎	◎					4				
脳 型 シ ス テ ム	2								2				
コンピュータグラフィックスA	2	○	○	◎						2			
コンピュータビジョンA	2	○	○	◎						2			
人 工 知 能 応 用	2	○	◎	○						2			
デ ー タ 解 析	2	◎	○	○						2			
デ ー タ 圧 縮	2	◎	○							2			
文 字 列 デ ー タ 処 理	2	○	○							2			
知能情報工学プロジェクト	2	◎	◎	◎						6			
知能情報工学特別講義	1									2			
卒 業 研 究	8	◎	◎	◎							6	18	
特 別 卒 業 研 究	8	◎	◎	◎						24			(注1) 早期卒業科目
専門科目区分認定科目Ⅰ													選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅱ													選択科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅲ													選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅳ													選択科目の単位として個別に認定する(注2)
合計	必 修	40	32	39									
	選 択 必 修	24	36	23									
	選 択	7	3	9									

(注1) 特別卒業研究は学修細則第7条第3項に該当する場合のみ履修可

(注2) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。

4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

2 情報・通信工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考	
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		1年		2年		3年		4年			
	単位数	学科共通	前	後	前	後	前	後	前	後		
解 析 I・同 演 習	2	◎	3									
線 形 代 数 I	2	◎	2									
離 散 数 学 I	2	◎	2									
解 析 II	2	◎		2								
線 形 代 数 II・同 演 習	2	◎		3								
離 散 数 学 II	2	◎		2								
確 率 ・ 統 計	2	◎			2							
微 分 方 程 式	2	○			2							
力 学 I	2	◎	2									
電 磁 気 学 I	2	○		2								
化 学 I	2			2								
生 物 学 I	2			2								
情報工学基礎実験	1	◎		3								
プログラミング	3	◎	5									
計算機システム I	2	◎	2									
情報工学概論	1	◎	2									
データ構造とアルゴリズム	2	◎		4								
計算機システム II	2	◎		2								
オートマトンと言語理論	2	◎		2								
情報セキュリティ概論	1	◎	1									
プログラム設計	2	◎			4							
ネットワーク通信基礎	2	◎			2							
情報通信工学実験 I	2	◎			4							
基礎科目区分認定科目 I												選択必修科目の単位として個別に認定する注
基礎科目区分認定科目 II												選択科目の単位として個別に認定する注
基礎科目区分認定科目 III												選択必修科目の単位として個別に認定する注
基礎科目区分認定科目 IV												選択科目の単位として個別に認定する注
合計	必 修		36									
	選 択 必 修		4									
	選 択		4									

(注) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		1年		2年		3年		4年				
	単位数	学科共通	前	後	前	後	前	後	前	後			
知的財産概論	2				2								
キャリア形成概論	2				2								
情報技術者倫理	2	◎					2						
情報関連法規	2						2						
情報職業論	2						2						
産業組織論	2						2						
情報産業職業論	2							2					
アントレプレナーシップ入門	1							1					
アントレプレナーシップ演習	1							1					
インターンシップ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。2、3年対象	
長期インターンシップ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。2、3年対象	
海外研修Ⅰ	1											注	
海外研修Ⅱ	2											注	
海外インターンシップ実習Ⅰ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。2、3年対象注	
海外インターンシップ実習Ⅱ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。2、3年対象注	
合計	必修		2										
	選択必修		0										
	選択		23										

(注) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択				授 業 時 数								備 考
	単位数	ソフトウェア デザインコース	情報通信 ネットワーク ワークコース	ネット コンピュータ 工学コース	1年		2年		3年		4年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
論 理 設 計	2	◎	◎	◎			2						
計 算 機 アーキテクチャ	2	◎	◎	◎			2						
ア ルゴリズム 設 計	2	○	○	○			2						
情 報 通 信 工 学 実 験 II	2	◎	◎	◎				4					
ネ ットワークアーキテクチャ	2	◎	◎	◎				2					
デ ー タ ベ ー ス	2	◎	○	○				2					
電 気 回 路	2		◎	◎				2					
オブジェクト指向プログラミング	3	○	○	○				4					
デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理	2		◎	○				2					
プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語 処 理 系	2	○						2					
応 用 数 学	2							2					
情 報 通 信 工 学 実 験 III	2	◎	◎	◎					4				
オペレーティングシステム	2	◎	○	◎					2				
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	2	◎		○						2			
情 報 理 論	2	◎	◎	◎					2				
通 信 理 論	2		◎						2				
ネ ットワークプログラミング	2	○	○						2				
信 号 処 理 回 路	2		○	◎					2				
信 号 処 理 シ ス テ ム	2		○	○					2				
最 適 化	2			○					2				
脳 型 シ ス テ ム	2								2				
情報通信工学プロジェクト研究	4	◎	◎	◎						8			
並 列 ・ 分 散 シ ス テ ム	2	○	○	○						2			
ソ フ ト ウ ェ ア 設 計 演 習	3	○							4				
シ ス テ ム アーキテクチャ	2	○								2			
組 込 み プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	○	○	○						2			
プ ロ ジ ェ ク ト マ ネ ジ メ ン ト	2	○								2			
デ ジ タ ル コ ン テ ン ツ	2		○							2			
集 積 化 シ ス テ ム 設 計	2			○						2			
半 導 体 情 報 工 学	2									2			
情 報 セ キ ュ リ テ ィ	2	○	○	○						2			
集 積 化 シ ス テ ム 設 計 演 習	1										2		
デ ィ ジ タ ル シ ス テ ム 設 計	2										2		
卒 業 研 究	8	◎	◎	◎							12	12	
特 別 卒 業 研 究	8	◎	◎	◎						24			(注1) 早期卒業科目
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 I													選択必修科目の単位として個別に認定する (注2)
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 II													選択科目の単位として個別に認定する (注2)
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 III													選択必修科目の単位として個別に認定する (注2)
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 IV													選択科目の単位として個別に認定する (注2)
合 計	必 修		30	30	30								
	選 択 必 修		22	23	23								
	選 択		25	24	24								

(注1) 特別卒業研究は学修細則第7条第3項に該当する場合のみ履修可

(注2) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。

4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

3 知的システム工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考	
	単位数	学科共通	1年		2年		3年		4年			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
解 析 I・同 演 習	2	◎	3									
線 形 代 数 I	2	◎	2									
離 散 数 学 I	2	◎	2									
解 析 II	2	◎		2								
線 形 代 数 II・同 演 習	2	◎		3								
離 散 数 学 II	2	○		2								
確 率 ・ 統 計	2	◎			2							
微 分 方 程 式	2	◎			2							
力 学 I	2	◎	2									
電 磁 気 学 I	2	◎		2								
化 学 I	2	○		2								
生 物 学 I	2	○		2								
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3								
化 学 II	2				2							
生 物 学 II	2				2							
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5									
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2									
情 報 工 学 概 論	1	◎	2									
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	◎		4								
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2								
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	○		2								
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1									
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	◎			4							
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	◎			2							
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 I	1	◎			3							
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I												選 択 必 修 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II												選 択 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III												選 択 必 修 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV												選 択 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
合 計	必 修		35									
	選 択 必 修		8									
	選 択		4									

(注) 1, 2, 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考	
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		1年		2年		3年		4年			
	単位数	学科共通	前	後	前	後	前	後	前	後		
知的財産概論	2				2							
キャリア形成概論	2					2						
情報技術者倫理	2	◎					2					
情報関連法規	2						2					
情報職業論	2						2					
産業組織論	2						2					
情報産業職業論	2							2				
アントレプレナーシップ入門	1								1			
アントレプレナーシップ演習	1									1		
インターンシップ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。2、3年対象
長期インターンシップ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。2、3年対象
海外研修Ⅰ	1											注
海外研修Ⅱ	2											注
海外インターンシップ実習Ⅰ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。2、3年対象注
海外インターンシップ実習Ⅱ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。2、3年対象注
合計	必修		2									
	選択必修		0									
	選択		23									

(注) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 数	◎:必修・○:選択必修・空欄:選択			授 業 時 数								備 考		
		ロボティクスコース	システム制御コース	先進機械コース	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
電 気 回 路 I	2	◎	○						2						
ロ ボ テ ィ ク ス 基 礎	2	◎							2						
シ ス テ ム 制 御 基 礎	2		◎						2						
機 械 シ ス テ ム 基 礎	1			◎					3						
熱 力 学	2			○					2						
構 造 シ ス テ ム の 基 礎 I	2	○	○	◎					2						
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 II	1	◎	◎	◎						3					
応 用 数 学	2	○	○	○					2						
ダ イ ナ ミ ッ ク ス	2	◎	◎	◎					2						
構 造 シ ス テ ム の 基 礎 II	2			◎					2						
信 号 処 理	2	○	○						2						
組 込 シ ス テ ム	2	◎	◎	◎					2						
数 値 計 算	2	○	○	○					2						
画 像 工 学 I	2	◎	◎	◎					2						
現 代 制 御 論	2	○	◎						2						
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 III	1	◎	◎	◎						3					
古 典 制 御 論	2	◎	◎	◎						2					
流 体 シ ス テ ム	2	○	○	◎					2						
ロ ボ テ ィ ク ス 応 用	2	◎							2						
シ ス テ ム 制 御 応 用	2		◎						2						
シ ス テ ム 制 御 コ ン ピ ュ ー テ ィ ン グ	2	○	◎						2						
応 力 解 析 の 基 礎	2			○					2						
デ ザ イン 基 礎	1			◎					3						
マ イ ク ロ シ ス テ ム	2	◎	◎	◎					2						
画 像 工 学 II	2	◎	○						2						
流 動 シ ス テ ム	2			○					2						
シ ス テ ム デ ザ イン 実 践 演 習	1			◎						3					
現 代 物 理 基 礎	2								2						
脳 型 シ ス テ ム	2								2						
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 IV	1	◎	◎	◎						3					
パ タ ー ン 解 析	2	◎	○							2					
サ ー モ ダ イ ナ ミ ッ ク ス	2			○						2					
機 械 シ ス テ ム 演 習	1			○						3					
シ ス テ ム 同 定	2									2					
計 算 力 学 の 基 礎	2	○	○							2					
計 算 熱 流 体 工 学	2									2					
シ ス テ ム 計 測	2	○	○	○						2					
シ ス テ ム 生 産 加 工 学	2	○	○	◎						2					
ロ ボ ッ ト 運 動 解 析 学	2	◎	○							2					
シ ス テ ム 最 適 論	2	○	○							2					
コ ン ト ロ ー ル	2	◎	○							2					
計 算 力 学 ・ 演 習	2			○						4					
メ カ ト ロ 材 料 学	2			○						2					
メ カ ノ シ ス テ ム	2			○						2					
知 的 シ ス テ ム 工 学 特 別 講 義	1	○	○	○						2					
卒 業 研 究	8	◎	◎	◎								12	12		
特 別 卒 業 研 究	8	◎	◎	◎							24				(注1) 早期卒業科目
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 I															選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 II															選択科目の単位として個別に認定する(注2)
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 III															選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 IV															選択科目の単位として個別に認定する(注2)
合 計	必 修		35	29	32										
	選 択 必 修		23	29	22										
	選 択		32	32	36										

(注1) 特別卒業研究は学修細則第7条第3項に該当する場合のみ履修可

(注2) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。

4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

4 物理情報工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考	
	単位数	学科共通	1年		2年		3年		4年			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
解 析 I・同 演 習	2	◎	3									
線 形 代 数 I	2	◎	2									
離 散 数 学 I	2	◎	2									
解 析 II	2	◎		2								
線 形 代 数 II・同 演 習	2	◎		3								
離 散 数 学 II	2			2								
確 率 ・ 統 計	2	◎			2							
微 分 方 程 式	2	◎			2							
力 学 I	2	◎	2									
電 磁 気 学 I	2	◎		2								
化 学 I	2	◎		2								
生 物 学 I	2	◎		2								
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3								
化 学 II	2				2							
生 物 学 II	2				2							
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5									
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2									
情 報 工 学 概 論	1	◎	2									
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	◎		4								
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2								
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2			2								
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1									
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	◎			4							
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	◎			2							
物 理 情 報 工 学 実 験 I	2	◎			4							
化 学 実 験	2				6							
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I												選 択 必 修 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 註
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II												選 択 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 註
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III												選 択 必 修 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 註
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV												選 択 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 註
合 計	必 修	40										
	選 択 必 修	0										
	選 択	10										

(注) 1, 2, 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		1年		2年		3年		4年				
	単位数	学科共通	前	後	前	後	前	後	前	後			
知的財産概論	2				2								
キャリア形成概論	2					2							
情報技術者倫理	2	◎					2						
情報関連法規	2						2						
情報職業論	2						2						
産業組織論	2						2						
情報産業職業論	2							2					
アントレプレナーシップ入門	1								1				
アントレプレナーシップ演習	1									1			
インターンシップ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。2、3年対象	
長期インターンシップ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。2、3年対象	
海外研修Ⅰ	1											注	
海外研修Ⅱ	2											注	
海外インターンシップ実習Ⅰ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。2、3年対象注	
海外インターンシップ実習Ⅱ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。2、3年対象注	
合計	必修		2										
	選択必修		0										
	選択		23										

(注) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択			授 業 時 数								備 考	
	単位数	電子物理学 コース	生物物理学 コース	1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
電気システム回路Ⅰ	2	◎	○			2							
熱力学	2	◎	○			2							
物理数学	2	◎	◎			2							
応用数学	2	○	○				2						
電磁気学Ⅱ	2	◎	○				2						
量子力学	2	◎	○				2						
連続体物理学	2	○	○				2						
ネットワークプログラミングP	2	○	◎				4						
電気システム回路Ⅱ	2	○	○				2						
光学・波動	2	◎	○				2						
生物物理学	2		◎				2						
データベース	2		◎				2						
物理情報工学実験Ⅱ	2	◎	◎				4						
物理化学演習	2		○				4						
電子物理情報実験	2	◎						6					
生物物理情報実験	2		◎					6					
統計力学	2	◎	○					2					
固体物理学	2	◎	○					2					
電子情報回路	2	◎	○					2					
構造生物学	2		◎					2					
コンピュータグラフィックスP	2	○	◎					2					
組込システム	2								2				
ネットワーク演習	1	○	○					2					
バイオデータベース演習	1	○	○					2					
バイオ情報計測分析	2							2					
人工知能論理	2							2					
脳型システム	2							2					
半導体情報工学	2	○							2				
光情報エレクトロニクス	2	○							2				
電子情報材料工学	2	○							2				
医用分子シミュレーション	2		○						2				
ソフトマター物理学	2		○						2				
数値計算演習	1		○						2				
グラフィックス演習	1		◎						2				
集積化システム設計	2	○							2				
信号処理P	2	○							2				
システムバイオロジー	2		○						2				
コンピューショナル・ゲノミクス	2		○						2				
物理情報セミナー	2	◎	◎						6				
人工知能応用	2								2				
卒業研究	8	◎	◎							12	12		
特別卒業研究	8	◎	◎							24			(注1) 早期卒業科目
専門科目区分認定科目Ⅰ													選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅱ													選択科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅲ													選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅳ													選択科目の単位として個別に認定する(注2)
合計	必修		32	27									
	選択必修		22	35									
	選択		30	28									

(注1) 特別卒業研究は学修細則第7条第3項に該当する場合のみ履修可

(注2) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。

4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

5 生命化学情報工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考	
	単位数	学科共通	1年		2年		3年		4年			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
解 析 I・同 演 習	2	◎	3									
線 形 代 数 I	2	◎	2									
離 散 数 学 I	2	◎	2									
解 析 II	2	◎		2								
線 形 代 数 II・同 演 習	2	◎		3								
離 散 数 学 II	2			2								
確 率 ・ 統 計	2	◎			2							
微 分 方 程 式	2	◎			2							
力 学 I	2	◎	2									
電 磁 気 学 I	2	◎		2								
化 学 I	2	◎		2								
生 物 学 I	2	◎		2								
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3								
化 学 II	2				2							
生 物 学 II	2				2							
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5									
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2									
情 報 工 学 概 論	1	◎	2									
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	◎		4								
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2								
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2			2								
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1									
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	◎			4							
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	◎			2							
化 学 実 験	2	◎			6							
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I												選 択 必 修 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II												選 択 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III												選 択 必 修 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV												選 択 科 目 の 単 位 と して 個 別 に 認 定 す る 注
合 計	必 修	40										
	選 択 必 修	0										
	選 択	8										

(注) 1, 2, 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数								備 考	
	単位数	学科共通	1年		2年		3年		4年			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
知 的 財 産 概 論	2				2							
キ ャ リ ア 形 成 概 論	2				2							
情 報 技 術 者 倫 理	2	◎					2					
情 報 関 連 法 規	2						2					
情 報 職 業 論	2						2					
産 業 組 織 論	2						2					
情 報 産 業 職 業 論	2							2				
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 入 門	1							1				
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 演 習	1							1				
イ ン タ ー ン シ ッ プ	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。2、3年対象
長 期 イ ン タ ー ン シ ッ プ	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。2、3年対象
海 外 研 修 I	1											(注)
海 外 研 修 II	2											(注)
海 外 イ ン タ ー ン シ ッ プ 実 習 I	1											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。2、3年対象(注)
海 外 イ ン タ ー ン シ ッ プ 実 習 II	2											事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。2、3年対象(注)
合 計	必 修	2										
	選 択 必 修	0										
	選 択	23										

(注) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択			授 業 時 数								備 考
	単位数	分子生命工学 コース	医用生命工学 コース	1年		2年		3年		4年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
生命化学情報工学入門	1	◎	◎			2						
有機化学	2	◎	◎			2						
ケミカルバイオロジー	2	◎	◎			2						
生 化 学	2	◎	◎			2						
データベース	2	◎	◎				2					
ネットワークプログラミングP	2	◎	◎				4					
物理化学演習	2	◎	◎				4					
環境情報学	2	○					2					
応用数学	2	○	○				2					
細胞生物学	2	○	○				2					
人工知能基礎	2		○				2					
生物有機化学	2	○					2					
バイオ統計・演習	2		○				4					
生物物理学	2						2					
コンピュータグラフィックスP	2	◎	◎					2				
ネットワーク演習	1	◎	◎					2				
遺伝情報科学	2	◎	◎					2				
バイオデータベース演習	1	◎	◎					2				
分子生物学	2	◎	◎					2				
生命化学情報工学実験Ⅰ	2	◎	◎					6				
生命化学情報工学実験Ⅱ	2	◎	◎					6				
人工知能B	2		○					2				
バイオ情報計測分析	2	○						2				
数値計算	2		○					2				
酵素工学	2	○						2				
脳情報工学	2							2				
人工知能論理	2							2				
現代物理基礎	2							2				
脳型システム	2							2				
グラフィックス演習	1	◎	◎						2			
数値計算演習	1	◎	◎						2			
生命化学情報工学プロジェクト研究	2	◎	◎						6			
生命化学情報工学専門概要	1	◎	◎						2			
生命化学情報工学実験Ⅲ	2	◎	◎						6			
システムバイオロジー	2	○	○						2			
医用情報工学	2		○						2			
医用分子シミュレーション	2		○						2			
遺伝子工学	2	○							2			
マイクロバイオーム情報工学	2	○							2			
人工知能応用	2								2			
コンピューショナル・ゲノミクス	2								2			
創薬ケモインフォマティクス	2								2			
データ解析	2								2			
ソフトマター物理学	2								2			
卒業研究	8	◎	◎							12	12	
特別卒業研究	8	◎	◎							24		(注1) 早期卒業科目
専門科目区分認定科目Ⅰ												選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅱ												選択科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅲ												選択必修科目の単位として個別に認定する(注2)
専門科目区分認定科目Ⅳ												選択科目の単位として個別に認定する(注2)
合計	必修		40	40								
	選択必修		18	18								
	選択		32	32								

(注1) 特別卒業研究は学修細則第7条第3項に該当する場合のみ履修可

(注2) 1、2、3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。

4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

別表2 (第5条関係)

I. 3年次編入学生の教養教育科目区分の履修方法 (各学科共通)

3年次編入学生は、以下の教養教育科目区分の授業科目を履修することができる。

教養教育科目区分の授業科目の修得単位は、すべて選択科目として単位に加算される。

1 教養教育科目

① 人文社会系

区分	授 業 科 目	単位数			授 業 時 数								備 考
		必修	選 必	選 択	1年		2年		3年		4年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
人文社会科目	哲 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	哲 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	教 育 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	教 育 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	一 般 言 語 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	一 般 言 語 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	文 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	文 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	歴 史 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	歴 史 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	地 域 研 究 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	地 域 研 究 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	地 理 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	地 理 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	法 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	法 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	日 本 国 憲 法 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	日 本 国 憲 法 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	経 済 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	経 済 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	経 営 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	経 営 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	社 会 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	社 会 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	政 治 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	政 治 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	職 業 と 社 会			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	心 理 学 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	心 理 学 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
ス ポ ー ツ 実 技			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)			戸・飯	
科 学 技 術 と 社 会 I			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯	
科 学 技 術 と 社 会 II			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯	
家 族 と 社 会			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯	
グローバル教養科目	異文化間コミュニケーション論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	言 語 類 型 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	西 洋 近 現 代 史			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	東 南 ア ジ ア 文 化 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	心 理 適 応 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	東 ア ジ ア 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	国 際 関 係 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	国 際 経 済 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	国 際 経 営 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
サステイナビリティ論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯	

区分	授 業 科 目	単位数			授 業 時 数								備 考
		必 修	選 必	選 択	1年		2年		3年		4年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
グ ロー バル 教 養 科 目	日 本 近 現 代 史			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	I C T と 現 代 社 会 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	日 本 社 会 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	科学コミュニケーション論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	市 民 社 会 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
	現 代 健 康 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯
ジ ェ ン ダ ー 論			1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			戸・飯	
人 文 社 会 系 選 択 科 目	西 洋 社 会 史			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	教 育 シ ス テ ム 論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	経 営 組 織 論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	言 語 分 析 法			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	情 報 倫 理			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	ゲ ー ム 理 論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	情 報 社 会 と 教 育			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	現 代 社 会 論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	情報メディアとコミュニケーション			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	日 本 政 治 論			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	飯
	選 択 日 本 事 情 I A			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	選 択 日 本 事 情 I B			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
	選 択 日 本 事 情 II A			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸
選 択 日 本 事 情 II B			1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	戸	
国 際 協 働 演 習			1									戸・飯 適宜	
計			66										

他キャンパスでの科目履修を希望する者は事前に届け出ること。

備考欄の戸、飯はそれぞれ戸畑キャンパス、飯塚キャンパスでの開講予定を表している。

年度ごとの開講キャンパスについては、時間割などで確認すること。

② 言語系

区分	授 業 科 目	単位数			授 業 時 数								備 考	
		必 修	選 必	選 択	1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
選 択 必 修 英 語 科 目	英 語 I C			1	(2)									戸・飯
	英 語 II C			1	(2)									戸・飯
	英 語 III C			1		(2)								戸・飯
	英 語 IV C			1		(2)								戸・飯
	英 語 V C			1		(2)	(2)							戸・飯
	英 語 VI C			1		(2)	(2)							戸・飯
	英 語 VII A			1			(2)	(2)	(2)	(2)				飯
	英 語 VII B			1			(2)	(2)	(2)	(2)				飯
	英 語 VII C			1			(2)	(2)	(2)	(2)				戸・飯
	英 語 VII D			1			(2)	(2)	(2)	(2)				戸・飯
	英 語 VIII A			1				(2)	(2)	(2)				戸・飯
	英 語 VIII B			1				(2)	(2)	(2)				飯
	英 語 VIII D			1				(2)	(2)	(2)				戸・飯
	英 語 IX A			1					(2)	(2)				戸・飯
	英 語 IX B			1					(2)	(2)				飯
英 語 IX D			1					(2)	(2)				戸・飯	
科 選 択 英 日 語	選 択 英 語 1 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				TOEIC 対策
	選 択 英 語 2 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
	選 択 英 語 3 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
	選 択 英 語 4 T			1	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				

区分	授 業 科 目	単位数			授 業 時 数								備 考	
		必修	選必	選択	1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
初 修 外 国 語 科 目	ド イ ツ 語 I			1	(2)	(2)								戸・飯
	ド イ ツ 語 II			1		(2)	(2)							戸・飯
	ド イ ツ 語 III			1			(2)	(2)	(2)	(2)				戸・飯
	ド イ ツ 語 IV			1				(2)		(2)				戸
	中 国 語 I			1	(2)	(2)								戸・飯
	中 国 語 II			1		(2)	(2)							戸・飯
	中 国 語 III			1			(2)	(2)	(2)	(2)				戸・飯
	中 国 語 IV			1				(2)		(2)				戸
	フ ラ ン ス 語 I			1	(2)	(2)								戸・飯
	フ ラ ン ス 語 II			1		(2)	(2)							戸・飯
	フ ラ ン ス 語 III			1			(2)	(2)	(2)	(2)				戸・飯
	フ ラ ン ス 語 IV			1				(2)		(2)				戸
	韓 国 語 I			1	(2)									戸
	韓 国 語 II			1		(2)								戸
	韓 国 語 III			1			(2)		(2)					戸
	韓 国 語 IV			1				(2)		(2)				戸
計			36											

キャンパスにより開講される科目・学期は異なる場合があるので、注意すること。
備考欄の戸、飯はそれぞれ戸畑キャンパス、飯塚キャンパスでの開講予定を表している。
開講キャンパスについては、学期毎に掲示などで公表するので注意すること。
他キャンパスでの科目履修を希望する者は事前に所属学部教務係に申請し、許可を得ること。

英語：

* 選択必修英語科目名のⅠ～Ⅸは難易度，A～Dは技能の種別を表しており技能種別の記号（A～D）は、以下の重点技能を表している。Ⅰ～Ⅵの技能はCのみであり，ⅦはA，B，C，D，Ⅷ以降はA，B，Dから選択できる。

A: Writing B: Reading

C: Comprehensive D: Speaking

* クォーター科目の開講がない場合，単位読み替えに対応する Semester 科目を受講すること。

* 選択英語科目 1T～4T は難易度を表し，通常時間枠または集中講義として開講する。

* 選択必修英語科目Ⅶ以降，選択英語科目は大学院との共通科目である。

* 1年次は学期あたり再履修の科目を除き2科目まで，2年次以降は学期あたりⅥまでは再履修の科目を除き1科目のみ，Ⅶ以降は同レベルの2科目まで履修できる。

* 再履修の科目を除き，単位修得済科目より下位レベルの科目は履修できない。

初修外国語：

* どの言語を選択する場合でも，原則として，Ⅰから順に履修すること。

* 1年次の必修2単位を未取得の者を除いて，2年生以上は，原則として1年次開講科目を履修できない。

③ 認定科目

授 業 科 目	単位数			授 業 時 数								備 考	
	必修	選必	選択	1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育科目区分認定科目													

II 3年次編入学生のための各学科別履修課程表

(注意) 3年次編入学生のための各学科別履修課程表中、授業年次を「3年・4年」としている科目は、1・2年生が対象となっているが、編入学生も履修することができる科目を示している。

1 知能情報工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	単位数	学科共通	3年・4年		3年			4年	
			前	後	前	後		前	後
解 析 I ・ 同 演 習	2	○	3						
線 形 代 数 I	2	◎	2						
離 散 数 学 I	2	◎	2						
解 析 II	2	○		2					
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	○		3					
離 散 数 学 II	2	○		2					
確 率 ・ 統 計	2	◎	2						
微 分 方 程 式	2	○	2						
力 学 I	2	○	2						
電 磁 気 学 I	2	○		2					
化 学 I	2			2					
生 物 学 I	2			2					
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3					
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5						
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2						
情 報 工 学 概 論	1	○	2						
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	◎		4					
計 算 機 シ ス テ ム II	2	○		2					
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	○		2					
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	○	1						
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	◎	4						
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	○	2						
知 能 情 報 工 学 基 礎 実 験	2	◎	4						
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
合 計	必 修	18							
	選 択 必 修	22							
	選 択	4							

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数						備 考
	単位数	学科共通	3年・4年		3年		4年		
			前	後	前	後	前	後	
知的財産概論	2		2						
キャリア形成概論	2			2					
情報技術者倫理	2	◎			2				
情報関連法規	2				2				
情報職業論	2				2				
産業組織論	2				2				
情報産業職業論	2					2			
アントレプレナーシップ入門	1					1			
アントレプレナーシップ演習	1					1			
インターンシップ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。
長期インターンシップ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。
海外研修Ⅰ	1								②
海外研修Ⅱ	2								②
海外インターンシップ実習Ⅰ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。②
海外インターンシップ実習Ⅱ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。②
合計	必 修		2						
	選 択 必 修		0						
	選 択		23						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択				授 業 時 数				備 考		
	単位数	データ科学コース	人工知能コース	メディア情報学コース	3年・4年		3年			4年	
					前	後	前	後		前	後
論 理 回 路	2	○	○	○	2						
ア ル ゴ リ ズ ム 設 計	2	○	○	○	2						
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	2	○	○	○	2						
応 用 数 学	2	○	○	○		2					
人 工 知 能 基 礎	2	○	○	○	2						
オブジェクト指向プログラミング	3	○	○	○	4						
デ ー タ ベ ー ス	2	○	○	○	2						
計 算 理 論	2	○	○	○	2						
信 号 処 理	2	○	○	○	2						
プログラミング言語処理系	2	○	○	○	2						
知能情報工学実験演習Ⅰ	2	○	○	○	4						
オペレーティングシステム	2	○	○	◎			2				
情 報 理 論	2	◎	○	◎			2				
メ デ ィ ア 処 理	2		○	◎			2				
人工知能プログラミング	3	◎	◎	○			4				
自 然 言 語 処 理	2	○	◎	◎			2				
人 工 知 能 論 理	2	◎	◎				2				
最 適 化	2	◎	○	○			2				
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	2		○	○				2			
機 械 学 習	2	○	○	○			2				
知能情報工学実験演習Ⅱ	2	◎	◎	◎			4				
脳 型 シ ス テ ム	2						2				
コンピュータグラフィックスA	2	○	○	◎				2			
コンピュータビジョンA	2	○	○	◎				2			
人 工 知 能 応 用	2	○	◎	○				2			
デ ー タ 解 析	2	◎	○	○				2			
デ ー タ 圧 縮	2	◎	○					2			
組込みプログラミング	2							2			
文字列データ処理	2	○	○					2			
知能情報工学プロジェクト	2	◎	◎	◎				6			
知能情報工学特別講義	1							2			
卒 業 研 究	8	◎	◎	◎					6	18	
専門科目区分認定科目Ⅰ										選択必修科目の単位として個別に認定する(注)	
専門科目区分認定科目Ⅱ										選択科目の単位として個別に認定する(注)	
専門科目区分認定科目Ⅲ										選択必修科目の単位として個別に認定する(注)	
専門科目区分認定科目Ⅳ										選択科目の単位として個別に認定する(注)	
合 計	必 修	25	21	24							
	選 択 必 修	37	45	36							
	選 択	9	5	11							

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

2 情報・通信工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
解 析 I ・ 同 演 習	2	◎	3						
線 形 代 数 I	2	◎	2						
離 散 数 学 I	2	◎	2						
解 析 II	2	◎		2					
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	◎		3					
離 散 数 学 II	2	◎		2					
確 率 ・ 統 計	2	◎	2						
微 分 方 程 式	2	○	2						
力 学 I	2	◎	2						
電 磁 気 学 I	2	○		2					
化 学 I	2			2					
生 物 学 I	2			2					
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3					
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5						
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2						
情 報 工 学 概 論	1	◎	2						
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	◎		4					
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2					
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	◎		2					
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1						
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	◎	4						
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	◎	2						
情 報 通 信 工 学 実 験 I	2	◎	4						
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I								選択必修科目の単位として個別に認定する ^{注)}	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II								選択科目の単位として個別に認定する ^{注)}	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III								選択必修科目の単位として個別に認定する ^{注)}	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV								選択科目の単位として個別に認定する ^{注)}	
合 計	必 修	36							
	選 択 必 修	4							
	選 択	4							

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
知 的 財 産 概 論	2		2						
キ ャ リ ア 形 成 概 論	2			2					
情 報 技 術 者 倫 理	2	◎			2				
情 報 関 連 法 規	2				2				
情 報 職 業 論	2				2				
産 業 組 織 論	2				2				
情 報 産 業 職 業 論	2					2			
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 入 門	1					1			
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 演 習	1					1			
イ ン タ ー ン シ ッ プ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。
長 期 イ ン タ ー ン シ ッ プ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。
海 外 研 修 I	1								②
海 外 研 修 II	2								②
海 外 イ ン タ ー ン シ ッ プ 実 習 I	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。②
海 外 イ ン タ ー ン シ ッ プ 実 習 II	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。②
合 計	必 修		2						
	選 択 必 修		0						
	選 択		23						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択				授 業 時 数				備 考		
	単位数	ソフトウェア デザイン コース	情報通信 ネットワーク コース	コンピュータ 工学コース	3年・4年		3年			4年	
					前	後	前	後		前	後
論 理 設 計	2	◎	◎	◎	2						
計 算 機 アーキテクチャ	2	◎	◎	◎	2						
ア ルゴリズム 設 計	2	○	○	○	2						
情 報 通 信 工 学 実 験 II	2	◎	◎	◎		4					
ネ ッ ト ワーク アーキテクチャ	2	◎	◎	◎	2						
デ ー タ ベ ー ス	2	◎	○	○	2						
電 気 回 路	2		◎	◎	2						
オブジェクト指向プログラミング	3	○	○	○	4						
デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理	2		○	○	2						
プ ロ グ ラ ミング 言 語 処 理 系	2	○			2						
応 用 数 学	2				2						
情 報 通 信 工 学 実 験 III	2	◎	◎	◎			4				
オペレーティングシステム	2	◎	○	◎			2				
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	2	◎		○			2				
情 報 理 論	2	○	◎	○			2				
通 信 理 論	2		◎				2				
ネ ッ ト ワーク プログラミング	2	○	○				2				
信 号 処 理 回 路	2		○	◎			2				
信 号 処 理 シ ス テ ム	2		○	○			2				
最 適 化	2			○			2				
脳 型 シ ス テ ム	2						2				
情報通信工学プロジェクト研究	4	◎	◎	◎				8			
並 列 ・ 分 散 シ ス テ ム	2	○	○	○				2			
ソ フ ト ウ ェ ア 設 計 演 習	3	○					4				
シ ス テ ム アーキテクチャ	2	○						2			
組 込 み プ ロ グ ラ ミング	2	○	○	○				2			
プ ロ ジ ェ ク ト マ ネ ジ メ ン ト	2	○						2			
デ ジ タ ル コ ン テ ン ツ	2		○					2			
集 積 化 シ ス テ ム 設 計	2			○				2			
半 導 体 情 報 工 学	2							2			
情 報 セ キ ュ リ テ イ	2	○	○	○				2			
集 積 化 シ ス テ ム 設 計 演 習	1								2		
デ ィ ジ タ ル シ ス テ ム 設 計	2								2		
卒 業 研 究	8	◎	◎	◎					12	12	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 I										選択必修科目の単位として個別に認定する(注)	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 II										選択科目の単位として個別に認定する(注)	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 III										選択必修科目の単位として個別に認定する(注)	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 IV										選択科目の単位として個別に認定する(注)	
合 計	必 修	28	28	28							
	選 択 必 修	24	25	25							
	選 択	25	24	24							

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

3 知的システム工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
解 析 I ・ 同 演 習	2	◎	3						
線 形 代 数 I	2	◎	2						
離 散 数 学 I	2	◎	2						
解 析 II	2	◎		2					
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	◎		3					
離 散 数 学 II	2	○		2					
確 率 ・ 統 計	2	◎	2						
微 分 方 程 式	2	◎	2						
力 学 I	2	◎	2						
電 磁 気 学 I	2	◎		2					
化 学 I	2	○		2					
生 物 学 I	2	○		2					
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3					
化 学 II	2		2						
生 物 学 II	2		2						
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5						
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2						
情 報 工 学 概 論	1	◎	2						
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	◎		4					
計 算 機 シ ス テ ム II	2	◎		2					
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	○		2					
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1						
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	○	4						
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	○	2						
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 I	1	◎	3						
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
合 計	必 修		31						
	選 択 必 修		12						
	選 択		4						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
知 的 財 産 概 論	2		2						
キ ャ リ ア 形 成 概 論	2			2					
情 報 技 術 者 倫 理	2	◎			2				
情 報 関 連 法 規	2				2				
情 報 職 業 論	2				2				
産 業 組 織 論	2				2				
情 報 産 業 職 業 論	2					2			
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 入 門	1					1			
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 演 習	1					1			
イ ン タ ー ン シ ッ プ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。
長 期 イ ン タ ー ン シ ッ プ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。
海 外 研 修 I	1								②
海 外 研 修 II	2								②
海 外 イ ン タ ー ン シ ッ プ 実 習 I	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。②
海 外 イ ン タ ー ン シ ッ プ 実 習 II	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。②
合 計	必 修		2						
	選 択 必 修		0						
	選 択		23						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択				授 業 時 数				備 考		
	単位数	ロボティクスコース	システム制御コース	先進機械コース	3年・4年		3年			4年	
					前	後	前	後		前	後
電 気 回 路 I	2	◎	○		2						
ロ ボ テ ィ ク ス 基 礎	2	◎			2						
シ ス テ ム 制 御 基 礎	2		◎		2						
機 械 シ ス テ ム 基 礎	1			◎	2						
熱 力 学	2			○	2						
構 造 シ ス テ ム の 基 礎 I	2			◎	2						
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 II	1	◎	◎	◎		3					
応 用 数 学	2	○	○	○	2						
ダ イ ナ ミ ク ス	2	◎	◎	◎	2						
構 造 シ ス テ ム の 基 礎 II	2			◎	2						
信 号 処 理	2	○	○		2						
組 込 シ ス テ ム	2	◎	◎	◎	2						
数 値 計 算	2	○	○	○	2						
画 像 工 学 I	2	◎	◎	◎	2						
現 代 制 御 論	2	○	◎		2						
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 III	1	◎	◎	◎			3				
古 典 制 御 論	2	◎	◎	◎			2				
流 体 シ ス テ ム	2	○	○	◎			2				
ロ ボ テ ィ ク ス 応 用	2	◎					2				
シ ス テ ム 制 御 応 用	2		◎				2				
シ ス テ ム 制 御 コ ン ピ ュ ー テ ィ ン グ	2	○	◎				2				
応 力 解 析 の 基 礎	2			○			2				
デ ザ イン 基 礎	1			◎			3				
マ イ ク ロ シ ス テ ム	2	◎	◎	◎			2				
画 像 工 学 II	2	◎	○				2				
流 動 シ ス テ ム	2			○			2				
シ ス テ ム デ ザ イン 実 践 演 習	1			◎			3				
現 代 物 理 基 礎	2						2				
脳 型 シ ス テ ム	2						2				
知 的 シ ス テ ム 工 学 実 験 演 習 IV	1	◎	◎	◎				3			
パ タ ー ン 解 析	2	◎	○					2			
サ ー モ ダ イ ナ ミ ッ ク ス	2			○				2			
機 械 シ ス テ ム 演 習	1			○				3			
シ ス テ ム 同 定	2							2			
計 算 力 学 の 基 礎	2							2			
計 算 熱 流 体 工 学	2							2			
シ ス テ ム 計 測	2	○	○	○				2			
シ ス テ ム 生 産 加 工 学	2	○	○	◎				2			
ロ ボ ッ ト 運 動 解 析 学	2	◎	○					2			
シ ス テ ム 最 適 論	2	○	○					2			
コ ン ト ロ ー ル	2	◎	○					2			
計 算 力 学 ・ 演 習	2			○				4			
メ カ ト ロ 材 料 学	2			○				2			
メ カ ノ シ ス テ ム	2			○				2			
知 的 シ ス テ ム 工 学 特 別 講 義	1	○	○	○				2			
卒 業 研 究	8	◎	◎	◎					12	12	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 I										選択必修科目の単位として個別に認定する旨	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 II										選択科目の単位として個別に認定する旨	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 III										選択必修科目の単位として個別に認定する旨	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 IV										選択科目の単位として個別に認定する旨	
合 計	必 修		35	29	32						
	選 択 必 修		19	25	22						
	選 択		36	36	36						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

4 物理情報工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
解 析 I ・ 同 演 習	2	◎	3						
線 形 代 数 I	2	◎	2						
離 散 数 学 I	2	○	2						
解 析 II	2	○		2					
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	○		3					
離 散 数 学 II	2			2					
確 率 ・ 統 計	2	◎	2						
微 分 方 程 式	2	◎	2						
力 学 I	2	◎	2						
電 磁 気 学 I	2	◎		2					
化 学 I	2	○		2					
生 物 学 I	2	○		2					
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3					
化 学 II	2		2						
生 物 学 II	2		2						
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5						
計 算 機 シ ス テ ム I	2	○	2						
情 報 工 学 概 論	1	◎	2						
デ ー タ 構 造 と ア ル ゴ リ ズ ム	2	◎		4					
計 算 機 シ ス テ ム II	2	○		2					
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2			2					
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	◎	1						
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	◎	4						
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	◎	2						
物 理 情 報 工 学 実 験 I	2	◎	4						
化 学 実 験	2		6						
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る (注)	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る (注)	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る (注)	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る (注)	
合 計	必 修		26						
	選 択 必 修		14						
	選 択		10						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
知的財産概論	2		2						
キャリア形成概論	2			2					
情報技術者倫理	2	◎			2				
情報関連法規	2				2				
情報職業論	2				2				
産業組織論	2				2				
情報産業職業論	2					2			
アントレプレナーシップ入門	1					1			
アントレプレナーシップ演習	1					1			
インターンシップ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。
長期インターンシップ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。
海外研修Ⅰ	1								②
海外研修Ⅱ	2								②
海外インターンシップ実習Ⅰ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。②
海外インターンシップ実習Ⅱ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。②
合 計	必 修		2						
	選 択 必 修		0						
	選 択		23						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択			授 業 時 数				備 考		
	単位数	電子物理 工学コース	生物物理 工学コース	3年・4年		3年			4年	
				前	後	前	後		前	後
電 気 シ ス テ ム 回 路 I	2	◎	○	2						
熱 力 学	2	◎	◎	2						
物 理 数 学	2	◎	◎	2						
応 用 数 学	2	○	○		2					
電 磁 気 学 II	2	◎			2					
量 子 力 学	2	◎	◎		2					
連 続 体 物 理 学	2	○	○		2					
ネットワークプログラミングP	2	○	◎		4					
電 気 シ ス テ ム 回 路 II	2	○			2					
光 学 ・ 波 動	2	◎	○		2					
生 物 物 理 学	2		◎		2					
デ ー タ ベ ー ス	2		◎		2					
物 理 情 報 工 学 実 験 II	2	○	○		4					
物 理 化 学 演 習	2				4					
電 子 物 理 情 報 実 験	2	◎				6				
生 物 物 理 情 報 実 験	2		◎			6				
統 計 力 学	2	◎	◎			2				
固 体 物 理 学	2	◎	○			2				
電 子 情 報 回 路	2	◎	○			2				
構 造 生 物 学	2		◎			2				
コンピュータグラフィックスP	2	○	◎			2				
組 込 シ ス テ ム	2						2			
ネ ッ ト ワ ー ク 演 習	1	○	○			2				
バ イ オ デ ー タ ベ ー ス 演 習	1	○	○			2				
バ イ オ 情 報 計 測 分 析	2					2				
人 工 知 能 論 理	2					2				
脳 型 シ ス テ ム	2					2				
半 導 体 情 報 工 学	2	○					2			
光 情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	2	○					2			
電 子 情 報 材 料 工 学	2	○					2			
医 用 分 子 シ ミ ュ レ ー シ ョ ン	2		○				2			
ソ フ ト マ タ ー 物 理 学	2		○				2			
数 値 計 算 演 習	1		○				2			
グ ラ フ ィ ッ ク ス 演 習	1		◎				2			
集 積 化 シ ス テ ム 設 計	2	○					2			
信 号 処 理 P	2	○					2			
シ ス テ ム バ イ オ ロ ジ ー	2		○				2			
コ ン ピ ュ ー テ ー シ ョ ナ ル ・ ゲ ノ ミ ク ス	2		○				2			
物 理 情 報 セ ミ ナ ー	2	◎	◎				6			
人 工 知 能 応 用	2						2			
卒 業 研 究	8	◎	◎					12	12	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 I									選択必修科目の単位として個別に認定する	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 II									選択科目の単位として個別に認定する	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 III									選択必修科目の単位として個別に認定する	
専 門 科 目 区 分 認 定 科 目 IV									選択科目の単位として個別に認定する	
合 計	必 修		30	31						
	選 択 必 修		24	25						
	選 択		30	28						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

5 生命化学情報工学科

① 基礎科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
解 析 I ・ 同 演 習	2	◎	3						
線 形 代 数 I	2	◎	2						
離 散 数 学 I	2	○	2						
解 析 II	2	○		2					
線 形 代 数 II ・ 同 演 習	2	○		3					
離 散 数 学 II	2	○		2					
確 率 ・ 統 計	2	○	2						
微 分 方 程 式	2	○	2						
力 学 I	2	○	2						
電 磁 気 学 I	2	○		2					
化 学 I	2	◎		2					
生 物 学 I	2	◎		2					
情 報 工 学 基 礎 実 験	1	◎		3					
化 学 II	2	○	2						
生 物 学 II	2	○	2						
プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	◎	5						
計 算 機 シ ス テ ム I	2	◎	2						
情 報 工 学 概 論	1	◎	2						
デ ー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム	2	○		4					
計 算 機 シ ス テ ム II	2	○		2					
オ ー ト マ ト ン と 言 語 理 論	2	○		2					
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論	1	○	1						
プ ロ グ ラ ム 設 計	2	○	4						
ネ ッ ト ワ ー ク 通 信 基 礎	2	○	2						
化 学 実 験	2	◎	6						
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 I								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 II								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 III								選 択 必 修 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
基 礎 科 目 区 分 認 定 科 目 IV								選 択 科 目 の 単 位 と し て 個 別 に 認 定 す る 註	
合 計	必 修		17						
	選 択 必 修		31						
	選 択		0						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

② 情報技術者科目

授 業 科 目	単 位		授 業 時 数				備 考		
	◎：必修・○：選択必修・空欄：選択		3年・4年		3年			4年	
	単位数	学科共通	前	後	前	後		前	後
知的財産概論	2		2						
キャリア形成概論	2			2					
情報技術者倫理	2	◎			2				
情報関連法規	2				2				
情報職業論	2				2				
産業組織論	2				2				
情報産業職業論	2					2			
アントレプレナーシップ入門	1					1			
アントレプレナーシップ演習	1					1			
インターンシップ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が40時間以上のものを対象とする。
長期インターンシップ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が80時間以上のものを対象とする。
海外研修Ⅰ	1								②
海外研修Ⅱ	2								②
海外インターンシップ実習Ⅰ	1								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が30時間以上のものを対象とする。②
海外インターンシップ実習Ⅱ	2								事前・事後教育を含む。企業での研修時間が60時間以上のものを対象とする。②
合 計	必 修		2						
	選 択 必 修		0						
	選 択		23						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含められず、進級査定後に単位付与が認められる。4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

③ 専門科目

授 業 科 目	単 位 ◎：必修・○：選択必修・空欄：選択			授 業 時 数				備 考		
	単位数	分子生命 工学コース	医用生命 工学コース	3年・4年		3年			4年	
				前	後	前	後		前	後
生命化学情報工学入門	1	◎	◎	2						
有機化学	2	○	○	2						
ケミカルバイオロジー	2	○	○	2						
生化学	2	○	○	2						
データベース	2	○	○		2					
ネットワークプログラミングP	2	○	○		4					
物理化学演習	2	○	○		4					
環境情報学	2	○			2					
応用数学	2	○	○		2					
細胞生物学	2	○	○		2					
人工知能基礎	2		○		2					
生物有機化学	2	○			2					
バイオ統計・演習	2		○		4					
生物物理学	2				2					
コンピュータグラフィックスP	2	○	○			2				
ネットワーク演習	1	◎	◎			2				
遺伝情報科学	2	◎	◎			2				
バイオデータベース演習	1	◎	◎			2				
分子生物学	2	◎	◎			2				
生命化学情報工学実験Ⅰ	2	◎	◎			6				
生命化学情報工学実験Ⅱ	2	◎	◎			6				
人工知能B	2		○			2				
バイオ情報計測分析	2	○				2				
数値計算	2		○			2				
酵素工学	2	○				2				
脳情報工学	2					2				
人工知能論理	2					2				
現代物理基礎	2					2				
脳型システム	2					2				
グラフィックス演習	1	◎	◎				2			
数値計算演習	1	◎	◎				2			
生命化学情報工学プロジェクト研究	2	◎	◎				6			
生命化学情報工学専門概要	1	◎	◎				2			
生命化学情報工学実験Ⅲ	2	◎	◎				6			
システムバイオロジー	2	○	○				2			
医用情報工学	2		○				2			
医用分子シミュレーション	2		○				2			
遺伝子工学	2	○					2			
マイクロバイオーム情報工学	2	○					2			
人工知能応用	2						2			
コンピューショナル・ゲノミクス	2						2			
創薬ケモインフォマティクス	2						2			
データ解析	2						2			
ソフトウェア物理学	2						2			
卒業研究	8	◎	◎					12	12	
専門科目区分認定科目Ⅰ									選択必修科目の単位として個別に認定する注	
専門科目区分認定科目Ⅱ									選択科目の単位として個別に認定する注	
専門科目区分認定科目Ⅲ									選択必修科目の単位として個別に認定する注	
専門科目区分認定科目Ⅳ									選択科目の単位として個別に認定する注	
合計	必修		26	26						
	選択必修		32	32						
	選択		32	32						

(注) 3年次の学生について、進級査定までに単位が与えられなかった場合は進級査定に当該単位は含まれられず、進級査定後に単位付与が認められる。
4年次の学生について、卒業査定までに単位が与えられた場合のみ単位付与が認められる。

別表3 (第7条関係)

I 教養教育科目の卒業要件単位 (各学科共通)

教養教育科目で合計 20 単位を卒業要件単位として、28 単位までを卒業要件として認める。

系区分	科目区分	科目区分別卒業要件単位		系区分別卒業要件単位
人文社会系	人文社会科目	6 単位 (注1)		10 単位
	グローバル教養科目	4 単位 (注1)		
言語系	選択必修英語科目	6 単位	左に加え 2 単位	10 単位
	初修外国語科目	2 単位		
教養教育共通	人文社会系選択科目	8 単位まで認める		
	選択 (必修) 英語・初修外国語科目 (注2)			

注1：人文社会系の科目区分別卒業要件単位を超えて修得した単位は、卒業要件に含まない。

注2：教養教育共通の「選択 (必修) 英語・初修外国語科目」は、言語系の履修課程表から、言語系の系区分別卒業要件単位数 10 単位を超えて修得した科目について計上する。

II 各学科別の卒業要件単位

1 知能情報工学科

○データ科学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI (各学科共通) に定める
基礎科目	必修科目	36 単位
	選択必修科目	2 単位以上
情報技術者科目	必修科目	2 単位
専門科目	必修科目	40 単位
	選択必修科目	8 単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して 124 単位以上

○人工知能コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI (各学科共通) に定める
基礎科目	必修科目	36 単位
	選択必修科目	2 単位以上
情報技術者科目	必修科目	2 単位
専門科目	必修科目	32 単位
	選択必修科目	16 単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して 124 単位以上

○メディア情報学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI (各学科共通) に定める
基礎科目	必修科目	36 単位
	選択必修科目	2 単位以上
情報技術者科目	必修科目	2 単位
専門科目	必修科目	39 単位
	選択必修科目	9 単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して 124 単位以上

2 情報・通信工学科

○ソフトウェアデザインコース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	36単位
	選択必修科目	2単位以上
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	30単位
	選択必修科目	12単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○情報通信ネットワークコース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	36単位
	選択必修科目	2単位以上
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	30単位
	選択必修科目	12単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○コンピュータ工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	36単位
	選択必修科目	2単位以上
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	30単位
	選択必修科目	12単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

3 知的システム工学科

○ロボティクスコース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	35単位
	選択必修科目	4単位以上
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	35単位
	選択必修科目	12単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○システム制御コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	35単位
	選択必修科目	4単位以上
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	29単位
	選択必修科目	18単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○先進機械コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	35単位
	選択必修科目	4単位以上
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	32単位
	選択必修科目	15単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

4 物理情報工学科

○電子物理工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	40単位
	選択必修科目	
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	32単位
	選択必修科目	14単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○生物物理工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	40単位
	選択必修科目	
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	27単位
	選択必修科目	19単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

5 生命化学情報工学科

○分子生命工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	40単位
	選択必修科目	
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	40単位
	選択必修科目	10単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○医用生命工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		別表3のI（各学科共通）に定める
基礎科目	必修科目	40単位
	選択必修科目	
情報技術者科目	必修科目	2単位
専門科目	必修科目	40単位
	選択必修科目	10単位以上
合計		上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

別表4 (第7条関係)

3年次編入学生の各学科別卒業要件単位

1 知能情報工学科

○データ科学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて18単位
	選択必修科目	認定単位を含めて6単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて25単位
	選択必修科目	認定単位を含めて23単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○人工知能コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて18単位
	選択必修科目	認定単位を含めて6単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて21単位
	選択必修科目	認定単位を含めて27単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○メディア情報学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて18単位
	選択必修科目	認定単位を含めて6単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて24単位
	選択必修科目	認定単位を含めて24単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

2 情報・通信工学科

○ソフトウェアデザインコース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて36単位
	選択必修科目	認定単位を含めて2単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて28単位
	選択必修科目	認定単位を含めて12単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○情報通信ネットワークコース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて36単位
	選択必修科目	認定単位を含めて2単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて28単位
	選択必修科目	認定単位を含めて12単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○コンピュータ工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて36単位
	選択必修科目	認定単位を含めて2単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて28単位
	選択必修科目	認定単位を含めて12単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

3 知的システム工学科

○ロボティクスコース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて31単位
	選択必修科目	認定単位を含めて8単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて35単位
	選択必修科目	認定単位を含めて12単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○システム制御コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて31単位
	選択必修科目	認定単位を含めて8単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて29単位
	選択必修科目	認定単位を含めて18単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○先進機械コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて31単位
	選択必修科目	認定単位を含めて8単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて32単位
	選択必修科目	認定単位を含めて15単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

4 物理情報工学科

○電子物理工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて26単位
	選択必修科目	認定単位を含めて10単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて30単位
	選択必修科目	認定単位を含めて12単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○生物物理工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて26単位
	選択必修科目	認定単位を含めて10単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて31単位
	選択必修科目	認定単位を含めて11単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

5 生命化学情報工学科

○分子生命工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて17単位
	選択必修科目	認定単位を含めて12単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて26単位
	選択必修科目	認定単位を含めて20単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

○医用生命工学コース

科目区分	単位区分	卒業要件単位
教養教育科目		認定単位を含めて20単位とし、28単位までを卒業要件単位として認める。
基礎科目	必修科目	認定単位を含めて17単位
	選択必修科目	認定単位を含めて12単位以上
情報技術者科目	必修科目	認定単位を含めて2単位
専門科目	必修科目	認定単位を含めて26単位
	選択必修科目	認定単位を含めて20単位以上
合計		認定単位を含めて、上記の単位及び基礎科目・情報技術者科目・専門科目区分選択科目の単位を合計して124単位以上

別表5（第8条関係）

I 各年次への進級要件

2年次進級要件	卒業要件に加算される単位を30単位以上修得すること
3年次進級要件	卒業要件に加算される単位を68単位以上修得すること
4年次進級要件	卒業要件に加算される単位を108単位以上修得し、さらに、各コースが各科目区分ごとに定める別表Ⅱの要件単位を修得すること

Ⅱ 各科目区分ごとの4年次進級要件

		修得すべき単位数又は授業科目	
知能情報工学	データ科学コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の必修科目12単位以上 ただし、知能情報工学実験演習Ⅱおよび知能情報工学プロジェクトは修得済みであること
	人工知能コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の必修科目9単位以上 ただし、知能情報工学実験演習Ⅱおよび知能情報工学プロジェクトは修得済みであること ・選択必修科目8単位以上
	メディア情報学コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の必修科目12単位以上 ただし、知能情報工学実験演習Ⅱおよび知能情報工学プロジェクトは修得済みであること
情報・通信工学	ソフトウェアデザインコース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の実験・演習科目（情報通信工学実験Ⅲ，情報通信工学プロジェクト研究）
	情報通信ネットワークコース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の実験・演習科目（情報通信工学実験Ⅲ，情報通信工学プロジェクト研究）
	コンピュータ工学コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の実験・演習科目（情報通信工学実験Ⅲ，情報通信工学プロジェクト研究）

		修得すべき単位数又は授業科目	
知的システム工学科	ロボティクスコース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の必修科目12単位以上 ただし、実験・演習科目（知的システム工学実験演習Ⅲ，知的システム工学実験演習Ⅳ）は修得済みであること
	システム制御コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の必修科目6単位以上 ただし、実験・演習科目（知的システム工学実験演習Ⅲ，知的システム工学実験演習Ⅳ）は修得済みであること ・選択必修科目6単位以上
	先進機械コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の必修科目8単位以上 ただし、実験・演習科目（知的システム工学実験演習Ⅲ，知的システム工学実験演習Ⅳ，デザイン基礎，システムデザイン実践演習）は修得済みであること ・選択必修科目4単位以上
物理情報工学科	電子物理工学コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の実験・演習科目（電子物理情報実験，物理情報セミナー）
	生物物理工学コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の実験・演習科目（生物物理情報実験，物理情報セミナー）
生命化学情報工学科	分子生命工学コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の実験・演習科目（ネットワーク演習，バイオデータベース演習，生命化学情報工学実験Ⅰ，生命化学情報工学実験Ⅱ，数値計算演習，生命化学情報工学専門概要，生命化学情報工学実験Ⅲ）
	医用生命工学コース	教養教育科目	18単位以上
		基礎科目	必修科目全て
		情報技術者科目 専門科目	・2年次までの必修科目全て ・3年次の実験・演習科目（ネットワーク演習，バイオデータベース演習，生命化学情報工学実験Ⅰ，生命化学情報工学実験Ⅱ，数値計算演習，生命化学情報工学専門概要，生命化学情報工学実験Ⅲ）

別表6 (第8条関係)

3年次編入学生の各学科別4年次進級要件

		修得すべき単位数又は授業科目
知能情報工学科	データ科学コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次の必修科目から知能情報工学実験演習Ⅱおよび知能情報工学プロジェクトを含み12単位以上修得済みであること。
	人工知能コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次の必修科目から知能情報工学実験演習Ⅱおよび知能情報工学プロジェクトを含み9単位以上修得済みであること、および3年次の選択必修科目から8単位以上修得済みであること。
	メディア情報学コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次の必修科目から知能情報工学実験演習Ⅱおよび知能情報工学プロジェクトを含み12単位以上修得済みであること。
情報・通信工学科	ソフトウェアデザインコース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次までの必修の実験・演習科目(情報工学基礎実験、情報通信工学実験Ⅰ、情報通信工学実験Ⅱ、情報通信工学実験Ⅲ、情報通信工学プロジェクト研究)の単位を全て含むこと。
	情報通信ネットワークコース	
	コンピュータ工学コース	
知的システム工学科	ロボティクスコース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次の必修科目から知的システム工学実験演習Ⅲ、および知的システム工学実験演習Ⅳを含み12単位以上修得済みであること。
	システム制御コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次の必修科目から知的システム工学実験演習Ⅲ、および知的システム工学実験演習Ⅳを含み6単位以上修得済みであること。および3年次の選択必修科目から6単位以上修得済みであること。
	先進機械コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次の必修科目から知的システム工学実験演習Ⅲ、知的システム工学実験演習Ⅳ、デザイン基礎およびシステムデザイン実践演習を含み8単位以上修得済みであること。および3年次の選択必修科目から4単位以上修得済みであること。
物理情報工学科	電子物理工学コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次までの必修の実験・演習科目(情報工学基礎実験、物理情報工学実験Ⅰ、電子物理情報実験、物理情報セミナー)の単位を全て修得済みであること。
	生物物理工学コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、3年次までの必修の実験・演習科目(情報工学基礎実験、物理情報工学実験Ⅰ、生物物理情報実験、物理情報セミナー)の単位を全て修得済みであること。
生命化学情報工学科	分子生命工学コース	認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計108単位以上修得すること。ただし、生命化学情報工学専門概要を修得済みであること。
	医用生命工学コース	

別表 7 (第 18 条関係)

教職課程

取得できる免許状の種類及び免許教科

学 科	免許状の種類	免許教科
知 能 情 報 工 学 科	高等学校教諭 一種免許状	情報
情 報 ・ 通 信 工 学 科		
知 的 シ ス テ ム 工 学 科		
物 理 情 報 工 学 科		
生 命 化 学 情 報 工 学 科		

免許状を取得するために必要な最低修得単位数

免許状の種類		最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目 (左記の最低修得単位数を超えて履修した教科及び教科の指導法に関する科目又は教育の基礎的理解に関する科目等)	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定め る 科 目
高等学 校教諭	一種免許 状 (情報)	24 単位	23 単位	12 単位	8 単位

教育の基礎的理解に関する科目等 (全学科共通)

区 分	授 業 科 目	単 位 数	授 業 時 数								備 考	
			1 年		2 年		3 年		4 年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教育の基礎的 理解に関する 科 目	○ 教 育 原 理	2		2								
	○ 教 職 論	2	2									
	○ 教 育 社 会 学	2			2							
	○ 学 校 安 全 管 理 論	1			1							
	○ 教 育 心 理 学	2	2									
	○ 特 別 支 援 教 育 論	1						1				
	○ 教 育 課 程 論	1			1							
道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	○ 総合的な学習の時間の指導法	1						1				
	○ 特別活動の指導法	1			1							
	○ 教 育 方 法	1					1					
	○ 生 徒 指 導	1			1							
	○ 教 育 相 談	2					2					
	○ 進 路 指 導	1						1				
	○ 教育と ICT 活用	1					1					
教育実践に関 する科目	○ 教 育 実 習	3							6			
	○ 教 職 実 践 演 習 (高)	2									2	

注) ① 上記の表中で○印の付された授業科目は、必ず修得しなければならない。

② 各科目について、教育の基礎的理解に関する科目等を 16 単位以上、教科及び教科の指導法に関する科目より教科教育法Ⅰ及び教科教育法Ⅱを含み大学が独自に設定する科目と併せて 24 単位以上、修得した者でなければ教育実習は履修できない。

③ 教育実習の 3 単位は、実習校での「教育実習」と、学部で開く「事前・事後指導」との二つの履修から成る。教育実習に行くためには、実習に行く前年度の 3 月に集中で開講される「事前指導」を受講しておかななければならない。

④ 教育実習に行くためには、別途に開講する「人権教育」を受講しておかななければならない。

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（全学科共通）

第 66 条の 6 に定める科目	開設授業科目		備 考
	授業科目	単位数	
日 本 国 憲 法	日 本 国 憲 法 I	1	
	日 本 国 憲 法 II	1	
体 育	ス ポ ー ツ 実 技	1	
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 論	1	
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英 語 I C	1	
	英 語 II C	1	
情 報 機 器 の 操 作	プ ロ グ ラ ミ ン グ	3	

注) 上記表中の授業科目は、必ず修得しなければならない。

大学が独自に設定する科目（全学科共通）

大学が独自に設定する科目	単位数	授 業 時 数								最低修得単位数
		1 年		2 年		3 年		4 年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	高校 1 種
大学が独自に設定する科目の最低修得単位数	12									「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低修得単位数を超えて履修した単位又は基礎的理解に関する科目等の最低修得単位数を超えて履修した単位について 12 単元以上修得

1 知能情報工学科

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目	授業科目	単位数	授業時数								最低修得単位数
			1年		2年		3年		4年		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	高校1種
情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	ICTと現代社会論	1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			1単位 ※いずれか1科目選択必修
	*情報社会と教育	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	*情報倫理	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	○情報職業論	2					2				
	産業組織論	2					2				
コンピュータ・情報処理	○計算機システムⅠ	2	2								1単位
	○データ構造とアルゴリズム	2		4							
	○計算機システムⅡ	2		2							
	オートマトンと言語理論	2		2							
	○知能情報工学基礎実験	2			4						
	○論理回路	2			2						
	○アルゴリズム設計	2			2						
	計算機アーキテクチャ	2			2						
	人工知能基礎	2				2					
	オブジェクト指向プログラミング	3				4					
	プログラミング言語処理系	2				2					
	自然言語処理	2					2				
人工知能論理	2					2					
情報システム	○プログラム設計	2			4						1単位
	データベース	2				2					
	オペレーティングシステム	2					2				
	ソフトウェア工学	2						2			
情報通信ネットワーク	○ネットワーク通信基礎	2			2						1単位
	情報理論	2					2				
マルチメディア表現・マルチメディア技術	○情報メディアとコミュニケーション	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	1単位
	メディア処理	2					2				
	コンピュータグラフィックスA	2						2			
	人工知能応用	2						2			
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	○教科教育法(情報)Ⅰ	2					2				4単位
	○教科教育法(情報)Ⅱ	2						2			
合計											24単位

注) ① 上記表中で○印の付された授業科目は、必ず修得しなければならない。

② 上記表中の*印の付された授業科目の内、いずれか1科目選択必修。

③ 上記表中の下線の付された授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める一般的包括的な内容を含む科目である。

2 情報・通信工学科

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目	授業科目	単位数	授業時数								最低修得単位数
			1年		2年		3年		4年		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	高校1種
情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	ICTと現代社会論	1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			1単位 ※いずれか1科目選択必修
	*情報社会と教育	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	*情報倫理	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	○情報職業論	2					2				
	産業組織論	2					2				
コンピュータ・情報処理	○計算機システムⅠ	2	2								1単位
	○データ構造とアルゴリズム	2		4							
	○計算機システムⅡ	2		2							
	○オートマトンと言語理論	2		2							
	○計算機アーキテクチャ	2			2						
	アルゴリズム設計	2			2						
	オブジェクト指向プログラミング	3				4					
	プログラミング言語処理系	2				2					
	デジタルシステム設計	2							2		
情報システム	○プログラム設計	2			4						1単位
	データベース	2				2					
	オペレーティングシステム	2					2				
	ソフトウェア工学	2						2			
情報通信ネットワーク	○ネットワーク通信基礎	2			2						1単位
	○情報通信工学実験Ⅱ	2				4					
	ネットワークアーキテクチャ	2				2					
	情報理論	2					2				
	通信理論	2						2			
	ネットワークプログラミング	2						2			
マルチメディア表現・マルチメディア技術	○情報メディアとコミュニケーション	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	1単位
	デジタル信号処理	2				2					
	デジタルコンテンツ	2						2			
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	○教科教育法(情報)Ⅰ	2					2				4単位
	○教科教育法(情報)Ⅱ	2						2			
合計											24単位

- 注) ① 上記表中で○印の付された授業科目は、必ず修得しなければならない。
 ② 上記表中の*印の付された授業科目の内、いずれか1科目選択必修。
 ③ 上記表中の下線の付された授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める一般的包括的な内容を含む科目である。

3 知的システム工学科

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目	授業科目	単位数	授業時数								最低修得単位数
			1年		2年		3年		4年		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	高校1種
情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	ICTと現代社会論	1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			1単位 ※いずれか1科目選択必修
	*情報社会と教育	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	*情報倫理	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	○情報職業論	2					2				
	産業組織論	2					2				
コンピュータ・情報処理	○計算機システムⅠ	2	2								1単位
	○データ構造とアルゴリズム	2		4							
	○計算機システムⅡ	2		2							
	オートマトンと言語理論	2		2							
	数値計算	2				2					
	現代制御論	2				2					
	○古典制御論	2					2				
	システム制御コンピューティング	2					2				
	システム計測	2						2			
コントロール	2						2				
情報システム	○プログラム設計	2			4						1単位
	○組込システム	2				2					
情報通信ネットワーク	○ネットワーク通信基礎	2			2						1単位
マルチメディア表現・マルチメディア技術	○情報メディアとコミュニケーション	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	1単位
	○画像工学Ⅰ	2				2					
	画像工学Ⅱ	2					2				
	パターン解析	2						2			
	計算力学の基礎	2							2		
計算力学・演習	2								4		
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	○教科教育法(情報)Ⅰ	2						2			4単位
	○教科教育法(情報)Ⅱ	2							2		
合計											24単位

- 注) ① 上記表中で○印の付された授業科目は、必ず修得しなければならない。
 ② 上記表中の*印の付された授業科目の内、いずれか1科目選択必修。
 ③ 上記表中の下線の付された授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める一般的包括的な内容を含む科目である。

4 物理情報工学科

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目	授業科目	単位数	授業時数								最低修得単位数
			1年		2年		3年		4年		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	高校1種
情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	ICTと現代社会論	1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			1単位 ※いずれか1科目選択必修
	*情報社会と教育	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	*情報倫理	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	○情報職業論	2					2				
	産業組織論	2					2				
コンピュータ・情報処理	○計算機システムⅠ	2	2								1単位
	○データ構造とアルゴリズム	2		4							
	○計算機システムⅡ	2		2							
	オートマトンと言語理論	2		2							
	人工知能論理	2					2				
	信号処理P	2						2			
	コンピュータシミュレーション・ゲノミクス	2							2		
情報システム	○プログラム設計	2			4						1単位
	データベース	2				2					
	組込システム	2						2			
	バイオデータベース演習	1					2				
情報通信ネットワーク	○ネットワーク通信基礎	2			2						1単位
	ネットワークプログラミングP	2				4					
	ネットワーク演習	1					2				
マルチメディア表現・マルチメディア技術	○情報メディアとコミュニケーション	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	1単位
	○物理数学	2			2						
	○物理情報工学実験Ⅱ	2				4					
	○コンピュータグラフィックスP	2					2				
	数値計算演習	1						2			
	グラフィックス演習	1						2			
	システムバイオロジー	2						2			
	人工知能応用	2						2			
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	○教科教育法(情報)Ⅰ	2					2				4単位
	○教科教育法(情報)Ⅱ	2						2			
合計											24単位

注) ① 上記表中で○印の付された授業科目は、必ず修得しなければならない。

② 上記表中の*印の付された授業科目の内、いずれか1科目選択必修。

③ 上記表中の下線の付された授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める一般的包括的な内容を含む科目である。

5 生命化学情報工学科

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目	授業科目	単位数	授業時数								最低修得単位数
			1年		2年		3年		4年		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	高校1種
情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	ICTと現代社会論	1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			1単位 ※いずれか1科目選択必修
	*情報社会と教育	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	*情報倫理	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
	○情報職業論	2					2				
	産業組織論	2					2				
コンピュータ・情報処理	○計算機システムⅠ	2	2								1単位
	○データ構造とアルゴリズム	2		4							
	○計算機システムⅡ	2		2							
	オートマトンと言語理論	2		2							
	人工知能基礎	2				2					
	人工知能B	2					2				
	数値計算	2					2				
	人工知能論理	2					2				
コンピュテーショナル・ゲノミクス	2						2				
情報システム	○プログラム設計	2			4						1単位
	○データベース	2				2					
	○バイオデータベース演習	1					2				
情報通信ネットワーク	○ネットワーク通信基礎	2			2						1単位
	ネットワークプログラミングP	2				4					
	ネットワーク演習	1					2				
マルチメディア表現・マルチメディア技術	○情報メディアとコミュニケーション	1			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	1単位
	○コンピュータグラフィックスP	2					2				
	○グラフィックス演習	1						2			
	数値計算演習	1						2			
	システムバイオロジー	2						2			
	人工知能応用	2						2			
	創薬ケモインフォマティクス	2						2			
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	○教科教育法(情報)Ⅰ	2					2				4単位
	○教科教育法(情報)Ⅱ	2						2			
合計											24単位

注) ① 上記表中で○印の付された授業科目は、必ず修得しなければならない。

② 上記表中の*印の付された授業科目の内、いずれか1科目選択必修。

③ 上記表中の下線の付された授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める一般的包括的な内容を含む科目である。

履修登録カード

年度

曜 日 ・ 時 限			
科 目 名		クラス番号	
教 員 名			

所 属 類 / 学 科		学 年	年 生
学 生 番 号			
氏 名			

期間外履修登録カード

年度

曜 日 ・ 時 限			
科 目 名		クラス番号	
教 員 名			
遅 延 理 由 お よ び 追 加 理 由 （ 詳 細 に ）			

所 属 類 / 学 科		学 年	年 生
学 生 番 号			
氏 名			

◎授業担当教員の許可を得た上で、教務係へ提出すること。

履修登録取消しカード

年度

曜 日 ・ 時 限			
科 目 名		クラス番号	
教 員 名			
取 消 理 由（詳細に）			

所 属 類 / 学 科		学 年	年 生
学 生 番 号			
氏 名			

上級年次の授業科目の履修願

年度

曜 日 ・ 時 限			
科 目 名		ク ラ ス 番 号	
教 員 名			

所 属 類 / 学 科		学 年	年 生
学 生 番 号			
氏 名			

○上記科目の履修が必要な理由

◎授業担当教員の許可を得た上で、教務係へ提出すること。

- ☆ 授業担当教員が非常勤講師の場合は、確認は必要ない。
- ☆ 授業担当教員（非常勤講師を除く）、教務委員の許可がない場合は受け付けない。
- ☆ 記入漏れの無いよう注意すること。記入漏れがある場合は受け付けない。
- ☆ 受講者数等の理由により履修できない場合は掲示により通知する。
- ☆ この用紙は、期日までに提出すること。

所属学科の履修課程表にない授業科目（他学科科目）履修願

年度

曜 日 ・ 時 限		遠隔授業科目 ※遠隔授業科目の場合は チェックを入れてください。	
科 目 名		クラス番号	
教 員 名			

所 属 類 / 学 科		学 年	年 生
学 生 番 号			
氏 名			

○上記科目の履修が必要な理由

◎授業担当教員の許可を得た上で、教務係へ提出すること。

- ☆ 授業担当教員が非常勤講師の場合は、確認は必要ない。
- ☆ 授業担当教員（非常勤講師を除く）、教務委員の許可がない場合は受け付けない。
- ☆ 記入漏れの無いよう注意すること。記入漏れがある場合は受け付けない。
- ☆ 受講者数等の理由により履修できない場合は掲示により通知する。
- ☆ この用紙は、期日までに提出すること。

他学部の授業科目の履修願

年度

曜 日 ・ 時 限		<small>遠隔授業科目 ※遠隔授業科目の場合は チェックを入れてください。</small>	
科 目 名		クラス番号	
教 員 名			

所 属 類 / 学 科		学 年	年 生
学 生 番 号			
氏 名			

○上記科目の履修が必要な理由

◎他学部の授業担当教員の許可を得た上で、教務係へ提出すること。

- ☆ 授業担当教員、教務委員の許可がない場合は受け付けない。
- ☆ 記入漏れの無いよう注意すること。記入漏れがある場合は受け付けない。
- ☆ この用紙は、期日までに提出すること。

単位認定取下げ願

下記のとおり、単位認定を取下げます。

記

類／学科

学 生 番 号

学 生 氏 名

科 目 名

教務委員確認欄

2. 修学上の注意事項について

1. 教育課程について

- (1) 情報工学部の教育課程は、教養教育科目、基礎科目、情報技術者科目及び専門科目の4つの科目区分により構成されています。
- (2) 授業科目には、必修科目、選択必修科目、選択科目及び査定外科目の4種類の査定区分があります。
必修科目は、卒業までに単位を修得する必要がある授業科目です。
選択必修科目は、科目区分ごとに設定された選択必修科目群の中から選択して履修し、科目区分ごとに設定された要件単位以上の単位を卒業までに修得する必要がある授業科目です。
- (3) 学生は、教育課程を修了するためには、4年以上在学し（休学及び停学した期間を除く。）、所属類又は所属学科の履修課程表に従って授業科目を履修し、卒業要件に加算される単位を合計して124単位以上修得し、さらに、各科目区分に設定されている卒業要件単位以上の単位を修得しなければなりません。
- (4) 3年次編入生が教育課程を修了するには、2年以上在学し（休学及び停学した期間を除く。）、所属学科の履修課程表に従って授業科目を履修し、認定単位を含めて卒業要件に加算される単位を合計して124単位以上修得し、さらに、各科目区分に設定されている卒業要件単位以上の単位を修得しなければなりません。

2. 履修課程表について

- (1) 1年次から入学した学生は、所属類又は所属学科の履修課程表に従って、各科目区分の授業科目を履修する必要があります。
- (2) 3年次に編入した学生は、所属学科の3年次編入学生用の履修課程表に従って、各科目区分の授業科目を履修する必要があります。
- (3) 学生は、履修課程表に定められている履修年次に従って各授業科目を履修する必要があります。

3. 上級年次への進級について

- (1) 1年次から入学した学生は、1年次から2年次に進級するためには、1年以上在学し、卒業要件に加算される授業科目の単位を、合計して30単位以上修得する必要があります。
- (2) 1年次から入学した学生は、2年次から3年次に進級するためには、2年以上在学し、卒業要件に加算される授業科目の単位を、合計して68単位以上修得する必要があります。
- (3) 1年次から入学した学生は、3年次から4年次に進級するためには、3年以上在学し、卒業要件に加算される授業科目の単位を、合計して108単位以上修得し、さらに、各コースが各科目区分ごとに定める4年次進級要件以上の単位を修得する必要があります。
- (4) 3年次に編入した学生は、4年次に進級するためには、3年次に1年以上在学し、3年次編入学生用の4年次進級要件以上の単位を修得する必要があります。
- (5) 病気や留学などの正当なやむを得ない理由があり、かつ、教務委員会が学生にとって教育上有益であると認める場合は、進級の要件を満たしていない場合であっても上級年次への進級を許可することがあります。

4. 指導教員について

- (1) 学生は、教育課程の履修方法や授業科目の選択方法に関して、必要に応じ、指導教員による勉強上のアドバイスを求める事ができます。
- (2) 勉強上の目的を持って、上級年次の授業科目や所属学科の履修課程表にない授業科目（他学科科目）の履修を希望する学生には、履修方法や授業科目の選択方法等について指導教員に相談し、アドバイスを受けること

を勧めます。

- (3) 進級に必要な単位数を順調に修得することができない学生は、なるべく早い時期に（留年が確定する前に）指導教員を訪問し、今後の勉学の進め方や授業科目の選択方法等に関して、アドバイスを受けることを勧めます。
- (4) 各学生を担当する指導教員の氏名は、教務情報システムの「学籍情報の参照」で確認することができます。

5. 履修登録について

ア 授業計画（シラバス）

講義などの要旨（講義内容・教育方針・成績評価方法など）については、次のURLを参照してください。

URL : <https://edragon-syllabus.jimu.kyutech.ac.jp/guest/syllabuses>

イ 履修登録

- (1) 学生は、各学期に履修しようとする授業科目について、その学期の定められた履修登録期間に履修登録を行う必要があり、履修登録をしていない授業科目は受講することができません。

なお、履修科目として登録することができる単位数の上限は、年間44単位（各学期22単位）となっています。しかし、集中講義又はそれに準じる形態で実施される授業科目及び教育の基礎的理解に関する科目は、この上限に含まれません。

通年の授業科目については、前期の履修登録期間に履修登録を行う必要があります。

（履修登録単位を制限することについて）

大学での授業科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準となっています。講義については15時間の授業で1単位、演習や実習、外国語、体育実技については30時間の授業で1単位、実験については45時間の授業で1単位としているのが大部分です。例えば、1単位の外国語科目を履修する場合には、45時間から30時間を差し引いた残りの15時間は、授業時間外（教室外）の学修が必要となります。この教室外の学修は学生が自主的に行い、学力の充実をはからなければなりません。

授業時間外での学修時間を十分に確保して内容の濃い学修を進めることができるように、履修科目として登録できる単位数の上限を年間44単位（各学期あたり22単位）に定めています。（集中講義又はそれに準じる形態で実施される授業科目及び教育の基礎的理解に関する科目は、この上限に含みません。）

学生は、この制度の趣旨をよく理解し、授業時間外において、課題の遂行や授業の予習・復習の学修に努めてください。

- (2) 複数クラスを開講する授業科目の場合等には、掲示、ガイダンス等を行って学生を振り分けることがあるので、担当教員の指示に従って履修登録を行ってください。
- (3) 学生は、既に単位を修得した授業科目については、再度の履修登録をすることはできません。
- (4) 集中講義又はそれに準じる形態で実施される授業科目については、各授業科目に掲示される履修登録締切り期日までに「履修登録カード」（別記様式第1号）を教務係に提出することにより、履修登録を行うことができます。
- (5) やむを得ない正当な理由により、履修登録期間及び修正登録期間に履修登録をすることができなかった学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、「期間外履修登録カード」（別記様式第2号）を教務係に提出することにより、履修登録又は修正登録を行うことができます。

ウ 修正登録

- (1) 修正登録期間は、通常、授業開始の第1週目に設定されます。

- (2) 授業に出席した上で、履修する授業科目を変更することにした場合には、修正登録期間に登録科目の修正（登録科目の追加及び取り消し）を行ってください。
- (3) 修正期間終了後に履修の取消しをすることにした場合は、修正期間終了後に設定される期間内に履修登録の取消しを行ってください。教務係で渡される「履修登録取消しカード」（別記様式第3号）に必要事項を記載した後、教務係に提出してください。
- (4) 集中講義又はそれに準じる形態で実施される授業科目の場合には、各授業科目に掲示される履修登録取消し期日までは、履修登録の取消しを行うことができます。
- (5) 正当な理由により、定められた期間内に履修の取消しをすることができなかった学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で「履修登録取消しカード」（別記様式第3号）を教務係に提出することにより、履修登録の取消しを行うことができます。
- (6) 出席調査等に用いられる「履修者名簿」は、学生の履修登録に基づき作成されます。履修者名簿を正確な名簿にするため、履修をしない授業科目については、必ず履修登録の取消しを行ってください。

エ 他学科の授業科目の履修

- (1) 所属類又は所属学科の履修課程表に含まれない授業科目（他学科科目）の履修を希望する学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、履修登録期間内に「所属学科の履修課程表に含まれない授業科目（他学科科目）履修願」（別記様式第5号）を教務係に提出してください。
- (2) 履修を許可された授業科目は、専門科目区分選択科目として取り扱われます。

オ 上級年次の授業科目の履修

- (1) 正当な理由により、自分の在籍する年次を超える履修年次の授業科目を希望する学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、履修登録期間内に「上級年次の授業科目の履修願」（別記様式第4号または別記様式第4号の2）を教務係に提出してください。
- (2) 所属類又は所属学科の教務委員は、上級年次の授業科目の履修が学生にとって教育上有益であり、また、履修を希望する理由が正当なものであると認める場合には、履修を許可します。
- (3) ただし、原級留置（留年）のある学生の場合、2・3年次の学生においては、選択必修科目及び選択科目については、すべての原級留置がないと仮定した年次を在籍年次とみなし、履修登録をすることができます。

カ 他学部の授業科目の履修

- (1) 他学部の授業科目の履修を希望する学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、履修登録期間内に「他学部の授業科目の履修願」（別記様式第6号）を教務係に提出してください。
- (2) 履修を許可された他学部の授業科目の単位は、所属類又は所属学科の教務委員の判断によりその授業科目の内容に応じた科目区分の選択科目の単位として、進級要件単位や卒業要件単位に加算されます。

キ 大学院の授業科目の履修

- (1) 3年次以上の学生で大学院情報工学府の授業科目の履修を希望する学生は、所属類又は所属学科の教務委員及び授業担当教員の許可を得た上で、履修登録期間内に「履修登録カード（大学院科目用）」を教務係に提出してください。
- (2) 履修を許可された大学院の授業科目の単位は、進級要件単位や卒業要件単位には加算されません。ただし、大学院に進学する場合には、大学院の修了要件単位として加算されることがあります。
- (3) 修得できる単位数は、卒業までに15単位までです。

6. 授業アンケートについて

- (1) 授業アンケートは、一部の科目を除いて、授業内容を改善する目的で行われます。
- (2) 授業アンケートの実施時には、回答にご協力をお願いします。

7. 試験について

ア 試験の実施について

- (1) 成績評価のために試験は、各学期の期末試験期間に実施します。ただし、授業科目によってはそれ以外の時期に試験を行うこともあります。
- (2) 各授業科目の試験実施の日時及び講義室等については、所定の掲示スペースにその都度掲示されます。
- (3) 不正行為を防止するため、試験を受ける際には、机の上に学生証を提示しなければなりません。

イ 試験の結果について

- (1) 試験の結果は、100点満点で評価します。
- (2) 試験の結果が60点以上あれば「合格」と判定され、試験の結果が当該授業科目の成績評価となります。
- (3) 試験の結果が0～59点であれば、「不可」と判定されます。
- (4) 試験の結果（合格又は不可）は、教務情報システムの「教務情報」ツールに表示されます。
- (5) 教務情報システムで、試験の結果が「(仮) ○○点」と表示されている段階では、成績評価は確定されていません。いつまでも仮のまま表示されている場合には、授業担当教員へ問い合わせてください。

ウ 学期末・学年末試験で不可になった場合の措置について

- (1) 再試験は、実施しません。
- (2) ただし、授業科目の総授業時間数の3分の2以上の授業に出席して不可となった学生のうち、授業担当教員が必要と認めた場合に限って、試験その他の方法による確認の後、成績の修正が行われることがあります。

エ 試験における不正行為について

- (1) 試験において不正行為のあった者に対しては、学修細則第26条に基づき、処分を受けることとなります。
- (2) 厳しい処分を受けることになった場合、留年が確定することや、退学しなければならないこともあります。不正行為を行わないよう学生相互で注意しあい、厳に慎むよう心がけましょう。

8. 学力不振者の除籍について

- (1) 1・2年次の学生で、連続する2年間（休学期間は除く。）に学修細則の第25条に定める単位数を修得していない者は、「学力不振で成業の見込のない者」と見なされ、学則第29条第1項第4号に定める除籍に関する審査の対象者となります。
- (2) 疾病若しくは負傷等、特別な理由により、上記の単位数を修得できなかった学生については、学部長が認める場合には除籍に関する審査の対象者とはしません。

9. 学生に対する掲示及び事務連絡について

- (1) 学生に対する公示、通知、呼び出し等は、あらかじめ指定した掲示スペースに掲示されます。重要な掲示を見落として、自己に不利益な結果を招くことのないよう、掲示を注意して見るようにしてください。
- (2) 学生に対する教員や事務担当者からの連絡や呼び出しには、電子メールやポータルサイト（LiveCampus）が多用されるようになりますので、自分宛ての電子メールは、定期的に読む習慣を身につけてください。
- (3) 教員や事務担当者から学生宛てに発信される電子メールは、「九工大メールアドレス」宛てに送信されます。

3. LiveCampus（教務情報システム・教務ポータルシステム）について

1. LiveCampus とは

LiveCampus は、学生の教務関係のサポート（履修登録、成績情報確認、個人情報の確認等）を行うオンラインツールです。学生本人が学内のネットワーク環境においてログインすることで使用できる教務情報システムと、学外からも利用可能で、大学が発信する教務関係の情報（スケジュール、連絡通知、レポート、授業カード、小テスト等）を閲覧することが出来る教務ポータルシステムがあります。

2. 飯塚キャンパス内で利用出来る場所・端末

- ◆附属図書館3階のオープン端末
- ◆その他、学内のネットワークに接続されている端末であれば使用可能です。

3. アクセス、ログインについて

LiveCampus は、web ブラウザからアクセスすることができます。

- (1) 学内のネットワークに接続している状態では、全ての機能が使えます。（教務ポータルシステム）
- (2) 学外のネットワークに接続している状態では、「履修・成績等」（教務情報システム）以外の機能が使えます。

URL <https://virginia.jimu.kyutech.ac.jp/>

ログイン画面が表示されますので、九工大 ID とパスワードを入力し、ログインすることで、教務ポータルシステムが利用でき、そのメニューの中に「履修・成績等」という項目で教務情報システムが利用できます。

4. ID、パスワードについて

LiveCampus にログインするためには、九工大 ID とパスワードが必要です。九工大 ID、パスワードは、新入生オリエンテーション等の際に配布しますので、受領後、速やかにパスワードを変更してください。（パスワードの変更は全学統合 ID 管理システムで行うことができます。）

九工大 ID、パスワードの再発行は、学生証を持参のうえ、情報基盤センター利用者窓口で申請してください。

5. 教務情報システム（学内接続時のみ利用可）について

「履修・成績等」をクリックすると、次のメニュー画面が表示されます。

◆履修関連

- 抽選履修登録（抽選履修登録を行うことができます。）
- 抽選履修登録結果（抽選履修登録を参照できます。）
- 一般講義履修登録（履修登録を行うことができます。）
- 集中講義履修登録（集中講義の履修登録を行うことができます。）

◆時間割関連

- 個人時間割（履修登録を行った科目を時間割形式で確認できます。）
- 試験時間割（履修登録を行った科目を試験時間割形式で確認できます。）

◆成績情報管理

- 成績情報の参照（成績情報を確認出来ます。）
- 単位修得情報の参照（直近の要件〔卒業・進級〕に係る単位の修得状況を確認できます。また、上記要件に係る未得必修科目一覧も確認できます。）
- カリキュラムの参照（適用されているカリキュラムを確認できます。）

◆学生情報関連

- 学籍情報の参照（個人の学籍情報を確認できます。自身の指導教員もここで確認ができます。登録内容に変更等があれば、教務係に申し出てください。）
- 安否アドレスの更新（安否確認に用いるための携帯電話アドレスを編集できます。）

6. 教務ポータルシステム（学内外利用可）について

大学が発信するさまざまな情報を確認することができます。

- ◆ホーム 自分自身に関する情報が一覧表示されます。
- ◆スケジュール 教務情報学内スケジュールの閲覧、個人スケジュールを登録等できます。
- ◆連絡通知 一般通知の他、履修している授業に関する通知（休講等）を確認できます。
- ◆リンク 各種リンクです。
- ◆アンケート 各種アンケートに回答できます。
- ◆レポート 履修している授業のレポート課題等です。
- ◆授業カード 授業科目別機能の情報を一覧表示できます。
- ◆ダウンロード 各種マニュアル等をダウンロードできます。
- ◆小テスト 履修している授業等で課されたテストに回答・提出ができます。
- ◆カスタマイズ 画面設定やパスワード変更ができます。
- ◆出欠管理 出欠状況について、確認することができます。
- ◆学習教育支援 学修自己評価システム、GCE ポートフォリオにアクセスできます。
- ◆履修・成績等（教務情報システム）

7. 履修登録について

各学期の初めに設定されている履修登録期間内に教務情報システムより履修登録を行ってください。定められた期間（履修登録期間・履修登録修正期間）以外では教務情報システムを利用しての登録・修正はできませんので、注意してください。

登録画面では、その時点で在籍している類／学科・学年の時間割が表示されますので、受講を希望する科目を選択して登録を行ってください。異なる学科・学年の科目を登録する際は、検索画面で受講を希望する科目を検索し、登録を行ってください。

期間内であれば、一旦登録を行った科目でも登録の取り消しを行うことができます。

8. 成績情報について

各科目の最終的な成績（合格・不可）は、学期末に教務情報システムで表示されますので、各自必ず確認してください。

- ◆ 成績表（科目の修得状況一覧（可否）が確認できます。）
 - ◆ 履修対成績表（当該年度の履修登録した科目に対する修得状況が確認できます。）
 - ◆ 不可（今までに不可となった科目一覧が確認できます。）
- その他、年別取得単位数、GPA 詳細等も確認することができます。

9. 不正アクセスについて

他人のパスワードを本人に無断で用いて教務情報システムへアクセスすると、たとえ何の被害を及ぼさなくても、「不正アクセス」となり、「不正アクセス行為の禁止に関する法律」による処罰の対象となります。

4. 教育職員免許状取得マニュアル

1. 教育職員免許状を取得するために

皆さんは、高等学校教諭一種免許状（情報）を取得することができます。そのためには、学生便覧をよく読み、以下のことを考えながら、履修を進めていく必要があります。

- ・教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすように単位を取得しながら、教職課程の履修課程表（学生便覧の学修細則別表7（第18条関係）に記載）の単位も取得しなければなりません。
- ・卒業要件の必修科目と教職の必修科目は異なります。（教職の単位の中には卒業要件に含まれるものと含まれないものがあります。）
- ・教職課程の履修課程表（学生便覧の学修細則別表7（第18条関係））の科目で、自分の類／学科の履修課程表にない科目は、進級／卒業要件に含まれませんが、教育職員免許状を取得するには必要な科目です。
- ・学科によっては、履修を制限する教職科目もあります。
- ・集中講義及び教育の基礎的理解に関する科目等以外の教職科目は、22単位の履修制限の対象となります。履修制限に関しては、学修細則を参照してください。

・免許状を取得するために必要な法定最低修得単位数は、次のとおりです。（学修細則別表7（第18条関係より））

免許状の種類		最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目 (左記の最低修得単位数を超えて履修した教科及び教科の指導法に関する科目又は教育の基礎的理解に関する科目等)	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
高等学校教諭	一種免許状(情報)	24単位	23単位	12単位	8単位(*)

(*) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として必修科目を修得すると9単位になりますが、最低修得単位数(8単位)を超えて修得した単位(1単位)は「大学が独自に設定する科目」としては認められません。

・教育実習へ行くために必要な修得単位数は、次のとおりです。（学修細則別表7（第18条関係より））

免許状の種類		40単位以上	
		教育の基礎的理解に関する科目等	教科及び教科の指導法に関する科目及び大学が独自に設定する科目
高等学校教諭	一種免許状(情報)	16単位以上	24単位以上 (教科教育法Ⅰ及びⅡを含む)

2. 教育職員免許状を取得するまでの流れについて

教育職員免許状を取得するまでの大まかな流れは次のようになっています。

1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育原理」「教職論」「教育心理学」を履修する。 ・卒業要件の必修科目が不可にならないように気をつける。 ※必修科目の再履修と教育職員免許状取得に必要な科目の時間割が重複し、必要な科目を修得できなかった場合、教育実習に行くことができなくなるので、必修科目は確実に修得しておくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・66条の6に定める科目を履修する。
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の自己評価を「学修自己評価システム」へ入力する際に教職履修課程の自己評価も行う。 ・「教育社会学」等、教育の基礎的理解に関する科目等を履修する。 ・1年次同様、卒業要件の必修科目が不可にならないように気をつける。 	
3年次	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の自己評価を「学修自己評価システム」へ入力する際に教職履修課程の自己評価も行う。 ・「教育方法」等、教育の基礎的理解に関する科目と「教科教育法(情報)Ⅰ」を履修する。

3年次	5月	・教育実習申込説明会に出席する。「教育実習申込用紙」を受け取り、自分で実習希望校へ連絡を入れ、受け入れや申込期間を担当教諭に確認し、必要事項を記載して教務係に提出する。
	6～7月	・5月に申し込みをした実習希望校への「内諾依頼書」を教務係から受け取る。 ※6月以前に教育実習校に来学が必要な場合は、教務係へ連絡する。
	7～8月	・主に夏期休業中に実習希望校の教育実習担当教諭に連絡を取った上で、教育実習の「内諾依頼書」を持参し、面談に行く。 ・面談後「内諾依頼書」の回答を教務係へ提出する。 (実習希望校が大学宛に郵送する場合があります) ※高等専門学校での教育実習はできませんので注意してください。 ※やむを得ない理由で教育実習を辞退する時は、直ちに教務係へ申し出て、手続きを取るとともに、実習予定校へ辞退する旨の連絡を必ず行うこと。
	10月	・「特別支援教育論」等、教育の基礎的理解に関する科目等及び「教科教育法(情報)Ⅱ」を履修する。
	12月	・「事前指導(交流実習)」に必ず出席する。 ※履修しなかった場合は教育実習を行うことができない。
	3月頃	・集中講義「事前指導(講義)」を履修する。 ※履修しなかった場合は教育実習を行うことができない。 ・4年生進級後に「教育実習」を履修できる単位を修得しているかを確認しておく。(学生便覧の学修細則別表7参照) ・単位を修得できなかった場合や、進路変更・留年等により教育実習を辞退する場合は、速やかに教務係へ申し出る。教務係で「辞退通知」を受け取り、内諾を得ていた実習予定校へ持参または郵送する。
4年次	4月	・前年度の自己評価を「学修自己評価システム」へ入力する際に教職履修課程の自己評価も行う。 ・履修登録期間に「教育実習」を必ず履修登録する。 ・4月中旬の集中講義「人権教育」を必ず履修する。 ・4月下旬の教育実習説明会に参加する。
	4～5月頃	・内諾を得ていた実習予定校より、正式な受入れ回答とともに教育実習期間の連絡があるので、それを確認して実習校との事前打合せを行う。 指導教員にも必ず報告をして、承諾を得ておく。
	5月～9月頃	・教育実習実施(2週間)。(中学校での実習は3週間が必要です)
	9月頃	・教育職員免許状の一括申請の説明会に出席する。 一括申請の大学への申込みと、教職単位の取得状況の確認を行う。
	10月	・「教職実践演習(高)」を履修登録する。
	12月頃	・「事後指導(交流実習)」に出席する。 ※出席しなかった場合は、「教育実習」の評価を不可とする。 ・一括申請の申し込みをした学生は、福岡県教育委員会より教育職員免許状授与願が届くので、内容の確認と申込費用の徴収を行う。
	2月頃	・一括申請の際に不足単位があった学生は、再度単位の確認を行い、単位取得ができないことが判明したら、至急教務係へ連絡し、申請取り下げ手続きを行う。
3月	・教育職員免許状交付 (3月下旬・卒業式当日に開催する教育職員免許状授与式にて配付予定)	

3. 編入学生、再入学生等(以下「編入学生等」とする。)に対する教職課程既修得単位の認定について

他の大学、短期大学、高等専門学校等から編入学等した学生で、教職課程を履修しようとする学生は、必ず、教務係において履修指導を受けてください。

○編入学生等には、編入学等する年次の学生の入学年度の教職履修課程表が適用されます(*)。

*令和4年度、令和5年度及び令和6年度4月に編入学等により入学した学生については、教育職員免許法等改正に伴い、免許状取得に必要な科目が編入学等年次の学生の入学年度の教職履修課程表と異なります。免許状取得を希望する学生は、単位認定担当教員との面談時に相談してください。

○編入学生に対する教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目の個別認定について

教養教育科目区分の科目は、出身学校等における人文・社会・体育・語学系の修得科目の書類審査を行なったうえで、修得単位数の範囲内で「教養教育科目区分認定科目」とし、20 単位を上限に一括して単位認定を行います。教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める単位については、個別認定が可能です。（単位認定担当教員との面談時に相談してください。）

○大学及び短期大学を除く学校等からの編入学生等に対する教職課程の単位認定について

編入学生等（大学及び短期大学からの編入学生等を除く）が教職課程の科目として認定を受けることができる科目は、教育職員免許法施行規則第 66 条の 7 に定めるものに限りま。

<教育職員免許法施行規則第 66 条の 7（抜粋）>

免許法別表第一備考第五号口の規定により認定課程を有する大学が免許状の授与の所要資格を得させるための教科及び教職に関する科目として適当であると認める科目の単位は、[略] 高等学校の教諭の普通免許状にあっては教科に関する専門的事項に関する科目の単位とし、次の表の第一欄に掲げる課程について、それぞれ、第二欄に掲げる免許状の種類に応じ、第三欄に掲げる単位数を限度とする。

第一欄 課程	第二欄 免許状の種類	第三欄 単位数
高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の専攻科（学校教育法第五十八条の二（同法第七十条第一項及び第八十二条において準用する場合を含む。）に規定する課程に限る。）	中学校又は高等学校の教諭の普通免許状	10
短期大学の専攻科		5
高等専門学校（第四学年及び第五学年に係る課程に限る。）		10
高等専門学校の専攻科		5
専修学校の専門課程(学校教育法第百三十二条に規定するものに限る。)		10

○大学及び短期大学からの編入学生等に対する教職課程の単位認定について

大学及び短期大学からの編入学生等が教職課程の科目として認定を受けることができる科目は、出身学校等が教職の認定課程を有しているか否かで以下のとおり異なります。

1. 出身学校等が認定課程を有している場合

在籍していた大学等の認定課程における科目を、教育職員免許法施行規則第 10 条の 3 に基づき認定します（在籍していた大学等が短期大学の場合にあっては、中学校教諭の二種免許状に係る各科目の単位数を上限とする。）。ただし、単位認定できない場合もあります。

免許状取得を希望する学生は、単位認定担当教員との面談時に、在籍していた大学等が発行する「学力に関する証明書」を持参してください。

また、既に他校種・教科の免許状を取得している学生は、面談時にあわせて取得済みの免許状を持参してください。

2. 出身学校等が認定課程を有していない場合

教育職員免許法別表第 1 備考第 5 号口及び同法施行規則第 66 条の 7 に基づき、「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位として認定します。ただし、単位認定できない場合もあります。

については、大学入学時の単位認定作業において、卒業要件の履修課程表と教職課程の履修課程表を照らし合わせ、認定科目を決める必要があります。場合によっては、卒業要件単位として認定されている科目を査定外の単位として再履修する必要があります。

4. 教職に関する連絡等について

教育職員免許状を取得するのに必要な情報（集中講義日程を含む。）や連絡は、次に掲示されます。

- ・ 共通教育研究棟 1 階ロビーの掲示板
- ・ Livecampus の連絡通知
- ・ 情報工学部 HP の学生へのお知らせ ← HOME > 在学生の方へ > 学生へのお知らせ

実習校との連絡事項、申請方法、説明会について掲示がありますので、常に注意しておく必要があります。

（上級年次の掲示にもできるだけ目を通すようにしておくこと、来年度以降の流れがよく判ります。）

また、資料を配布する場合がありますので、配付期間等にも注意しておく必要があります。

5. 必要な経費について

教育職員免許状を取得するまでにかかる経費は、自己負担となります。

必要な経費（※金額は前年度を参照）

- ・ 免許状申請費用（1 免許状につき、3,300 円）
- ・ 教育実習経費（福岡県立学校の場合、12,000 円）
- ・ 連絡用切手代など

※経費が必要な場合は、事前に通知や連絡を行います。

6. 教育実習について

・「教育実習」の必修項目は、次のとおりです。 ※すべてを履修しないと「教育実習」の単位が取得できません。

3 年		4 年		
12 月	3 月	4 月	5～9 月	12 月
事前指導 (交流実習)	事前指導 (講義)	事前指導 (人権教育)	教育実習 (実習校)	事後指導 (交流実習)

- ・ 「教育実習」に関する手続きは、3 年次に実習予定校から内諾をもらうことから始まります。
 - ・ 都道府県市町村によっては、通常行っている手続きの他に独自の手続きが必要な場合があります。
 - ・ 本人にのみ連絡される事項や書類等もありますので、教務係と連絡を密にしておく必要があります。
- 研究室においても、指導教員へスケジュール等を必ず報告して下さい。

教育実習を行う前後には、下記のような事務手続きや連絡が必要になります。

- 1) 実習校との事前打合せについて
- 2) 欠席届の提出（教務係・履修科目の担当教員）
- 3) 教育実習経費、及び関係書類の提出（教務係）
- 4) 教育実習録関係書類の準備（教務係より配付）
- 5) 教育実習終了の報告

教育実習にあたっては、下記の事項に注意する必要があります。

- 1) 教育実習中に教育実習生として相応しくない行為等があれば、教育実習を中止させることがあるので、実習先のルールに従って実習期間を過ごすこと。
- 2) 実習中は、お世話くださる教職員の方々に対し、礼儀をわきまえ、指導教諭の指示に従って実習に精励すること。
- 3) あらかじめ実習校において定めた、始業・朝礼・会議などの時間は厳守すること。やむを得ず、遅刻・

早退・欠席する時は、必ず前もって指導教諭に届け出て承認を求めること。

- 4) 生徒との交流は常に教える側の立場にあることを配慮して行動すること。
- 5) 生徒と親しく交わるあまり、礼儀を乱し体面を汚すような行為は、絶対に行わないこと。
- 6) 実習校の内容又は内情をみだりに他言あるいは公表し、また、他校と比較対照して批判を加えるようなことは厳に慎むこと。
- 7) 実習校によっては、教室・廊下を下足のまま出入りすることが厳禁されている場合があるので、上履きスリッパ類を使用することの確認を行っておくこと。
- 8) 実習生の控え室を清掃し、湯茶は自ら汲み、指定された場所以外では喫煙しないこと。
- 9) 火災・盗難には、常に十分に留意をすること。
- 10) 服装には、常に注意を払うこと。

授業実習にあたっては、下記の事項に注意する必要があります。

- 1) 授業を行うにあたっては、あらかじめ綿密な準備と計画を立てるよう心がけること。
- 2) 教案を作成すること。(授業で行う例題等も解いておくこと。)
- 3) 生徒の出欠席は授業の始めに確実にとり、終了後に欠席者を再度確認すること。出席簿は、授業開始前に持っていくこと。
- 4) 授業変更がなされる場合があるため、職員室の変更黒板の記載事項は常に注意すること。
- 5) 緊急でやむを得ない時以外は、割り当ての授業実習を確実に行うこと。
- 6) 実習に出ない時は、指導教諭の指示を受けて、教案を作成したり、教室での聴講にまわること。

教育実習録については、教育実習の単位の判定資料にもなりますので、大切に、きちんと記入をする必要があります。

- 1) 教育実習生調書 …… 詳しく、丁寧に記入する。
- 2) 実習日誌 …… 毎日記入し、指導教諭に提出する。
- 3) 教育実習を終えて …… 全期間を通じての反省・感想を記入する。
(これは、教職に就いた時に参考資料となる。)

万一、教育実習期間中、またはその前後に不慮の事故等で実習を受けられない場合や実習終了後すぐに大学へ出て来られない場合は、教務係へ連絡を行うこと。

【九州工業大学情報工学研究院教務学生支援課教務係 TEL 0948 - 29 - 7512】

7. 教育職員免許状の一括申請について

教育職員免許状の申請は、各学部で取りまとめて、大学全体で行います。ただし、中には一括申請できない場合もあります。4年生の9月末頃に行われる一括申請説明会に参加し、一括申請の対象者であるかの確認、および、その後の手続きの流れを確認してください。万一、単位不足等で一括申請の対象にならなかった場合は、個人申請を行うこととなります。

8. 問い合わせ・相談について

教職関係科目の履修方法や単位の取得、教育実習についてなど、教職課程のことについて、学生便覧や配布資料、掲示板を読んでもわからないことや相談したいことがある場合には、教務係へ問い合わせ、相談をして下さい。

5. 各種の資格等について

●技術士（技術士法）

情報工学部卒業生は、JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けた教育プログラムの修了により技術士試験の第1次試験が免除される。卒業後は、文部科学省令に定める業務に従事し、その従事した期間が同省令に定める期間を超えることにより、第2次試験を受けることができる。

※ただし、以下の各学科で定める年度以降に在籍している学生は、JABEEの認定を受けた教育プログラムを修了したとは認められなくなる（技術士第1次試験免除の対象外となる）可能性がある。

- ・知能情報工学科：2031年度以降に在籍している学生
- ・情報・通信工学科：2030年度以降に在籍している学生
- ・知的システム工学科：2030年度以降に在籍している学生
- ・物理情報工学科：2030年度以降に在籍している学生
- ・生命化学情報工学科：2031年度以降に在籍している学生

●1級技術検定（建設業法）

知能情報工学科（注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

知能情報工学科卒業生で、施工技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目について、卒業した後、受検しようとする種目に関し指導監督の実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を有する者は、1級技術検定の受検資格が認められる。

情報・通信工学科（注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

情報・通信工学科卒業生で、施工技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目について、卒業した後、受検しようとする種目に関し指導監督の実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を有する者は、1級技術検定の受検資格が認められる。

知的システム工学科（注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

知的システム工学科卒業生で、施工技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「機械工学に関する学科」となっている検定種目について、卒業した後、受検しようとする種目に関し指導監督の実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を有する者は、1級技術検定の受検資格が認められる。

物理情報工学科（注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

物理情報工学科卒業生で、施工技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目について、卒業した後、受検しようとする種目に関し指導監督の実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を有する者は、1級技術検定の受検資格が認められる。

生命化学情報工学科

生命化学情報工学科卒業生で、施工技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目について、別紙に示す教科において指定する条件を満たし卒業した後、受検しようとする種目に関し指導監督の実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を有する者は、1級技術検定の受検資格が認められる。

●2級技術検定（建設業法）

知能情報工学科（注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

知能情報工学科卒業生で、施行技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目であって、次の表左欄に掲げる種目及び試験区分について、

2級の第一次検定に合格した者であって、それぞれ同表右欄に掲げる者は、2級技術検定の受検資格が認められる。

種目及び試験区分		受検資格を認める者
建設機械 施工管理	第二次 検定	九州工業大学情報工学部知能情報工学科を卒業した後、受検しようとする種別に関する6月以上の実務経験を含む1年以上の実務経験を有する者
その他の 種目		九州工業大学情報工学部知能情報工学科を卒業した後、受検しようとする種目（土木施工管理又は建築施工管理にあつては、種別）に関し1年以上の実務経験を有する者

情報・通信工学科 （注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

情報・通信工学科卒業生で、施行技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目であって、次の表左欄に掲げる種目及び試験区分について、2級の第一次検定に合格した者であって、それぞれ同表右欄に掲げる者は、2級技術検定の受検資格が認められる。

種目及び試験区分		受検資格を認める者
建設機械 施工管理	第二次 検定	九州工業大学情報工学部情報・通信工学科を卒業した後、受検しようとする種別に関する6月以上の実務経験を含む1年以上の実務経験を有する者
その他の 種目		九州工業大学情報工学部情報・通信工学科を卒業した後、受検しようとする種目（土木施工管理又は建築施工管理にあつては、種別）に関し1年以上の実務経験を有する者

知的システム工学科 （注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

知的システム工学科卒業生で、施行技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「機械工学に関する学科」となっている検定種目であって、次の表左欄に掲げる種目及び試験区分について、2級の第一次検定に合格した者であって、それぞれ同表右欄に掲げる者は、2級技術検定の受検資格が認められる。

種目及び試験区分		受検資格を認める者
建設機械 施工管理	第二次 検定	九州工業大学情報工学部知的システム工学科を卒業した後、受検しようとする種別に関する6月以上の実務経験を含む1年以上の実務経験を有する者
その他の 種目		九州工業大学情報工学部知的システム工学科を卒業した後、受検しようとする種目（土木施工管理又は建築施工管理にあつては、種別）に関し1年以上の実務経験を有する者

物理情報工学科 （注）認定手続き中の内容であり、変更の可能性があります。

物理情報工学科卒業生で、施行技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目であって、次の表左欄に掲げる種目及び試験区分について、2級の第一次検定に合格した者であって、それぞれ同表右欄に掲げる者は、2級技術検定の受検資格が認められる。

種目及び試験区分		受検資格を認める者
建設機械 施工管理	第二次 検定	九州工業大学情報工学部物理情報工学科を卒業した後、受検しようとする種別に関する6月以上の実務経験を含む1年以上の実務経験を有する者
その他の 種目		九州工業大学情報工学部物理情報工学科を卒業した後、受検しようとする種目（土木施工管理又は建築施工管理にあつては、種別）に関し1年以上の実務経験を有する者

生命化学情報工学科

生命化学情報工学科卒業生で、施行技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目であって、次の表左欄に掲げる種目及び試験区分について、2級の第一次検定に合格した者であって、それぞれ同表右欄に掲げる者は、2級技術検定の受検資格が認められる。

種目及び試験区分		受検資格を認める者
建設機械 施工管理	第二次 検定	九州工業大学情報工学部生命化学情報工学科の課程のうち別紙に示す教科において指定する条件を満たし卒業した後、受検しようとする種別に関する6月以上の実務経験を含む1年以上の実務経験を有する者
その他の 種目		九州工業大学情報工学部生命化学情報工学科の課程のうち別紙に示す教科において指定する条件を満たし卒業した後、受検しようとする種目（土木施工管理又は建築施工管理にあっては、種別）に関し1年以上の実務経験を有する者

(別紙)

生命化学情報工学科分子生命工学コース

施工技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目の受検資格認定対象者は下記のとおりとする。

次に掲げる科目から、合計6単位以上履修した者

人工知能基礎 人工知能B 脳情報工学 人工知能論理 脳型システム
--

生命化学情報工学科医用生命工学コース

施工技術検定規則（昭和35年建設省令第17号）第2条の表の学科の欄において「電気工学に関する学科」となっている検定種目の受検資格認定対象者は下記のとおりとする。

次に掲げる科目から、合計4単位以上履修した者

環境情報学 脳情報工学 人工知能論理 脳型システム

6. 九州工業大学情報工学部及び大学院情報工学府学期末試験要項

平成 21 年 6 月 24 日
情報工学部長 裁定
大学院情報工学府長 裁定

最終改正 令和 6 年 2 月 28 日

目次

- 第 1 章 総則（第 1 条・第 2 条）
- 第 2 章 大学と学生に関する事項（第 3 条－第 6 条）
- 第 3 章 大学、学生及び教員等に関する事項（第 7 条）
- 第 4 章 大学と教員等に関する事項（第 8 条－第 11 条）
- 第 5 章 雑則（第 12 条）

附則

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 この要項は、九州工業大学情報工学部学修細則（平成 8 年九工大情報工学部細則第 8 号。以下「学部学修細則」という。）及び九州工業大学大学院情報工学府学修細則（平成 3 年九工大情報工学府細則第 5 号。以下「大学院学修細則」という。）に定めるもののほか、九州工業大学情報工学部及び大学院情報工学府の学期末における試験（以下「学期末試験」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（学期末試験の実施）

- 第 2 条 学期末試験は、当該授業科目の成績評価を行う唯一又は最後に行う試験とし、筆記試験によるもののほか、レポート提出、口述試験、実技試験、作品提出等（以下「レポート提出等」という。）により実施するものとする。
- 2 学期末試験は、当該授業科目が実施される学期末に設ける試験期間（以下「試験期間」という。）に行うものとする。ただし、集中講義又はそれに準ずる形態で実施される授業科目を除く。
- 3 前項の規定にかかわらず、レポート提出等又は試験期間中に実施しないことに相当の理由がある授業科目の筆記試験は、講義（演習等を含む。）が規定回数行われた後、試験期間に当たらない日に学期末試験を実施することができるものとする。この場合、第 5 条第 2 項に規定する方法により、原則として、2 週間前までに履修登録者に周知するものとする。

第 2 章 大学と学生に関する事項

（学期末試験の受験資格）

第 3 条 学期末試験を受験する資格がある者は、当該授業科目の履修登録者とする。ただし、次の各号の一に該当する者は、受験資格がないものとする。

(1) 休学中又は停学中の者

(2) 学部学修細則第 13 条第 2 項又は大学院学修細則第 7 条第 3 項に定める時間数出席していない者

2 前項の規定にかかわらず、当該授業を担当する教育職員（以下「授業担当教育職員」という。）等の判断により、履修登録者以外にも受験を許可することがある。

(試験時間)

第4条 試験時間は、原則として90分とし、必要な場合には別に授業担当教育職員が定めるものとする。

- 2 障害を有する者で、受験に支障があると認められる場合には、試験時間を1.5倍にすることができるものとする。
- 3 前項に定めるもののほか、障害を有する者の試験時間、試験実施等については、必要な場合にはその都度、当該学生、当該学生の所属する類若しくは所属学科の教務委員会委員又は専門分野の大学院委員会委員、教務学生支援課等が協議し、決定するものとする。

(学期末試験の周知)

第5条 試験期間中に行われる学期末試験は、原則として、試験期間開始の2週間前までに時間割を掲示することにより周知するものとする。ただし、時間割は、試験当日まで変更する場合があるものとする。

- 2 レポート提出等及び試験期間中に実施されない学期末試験の場合は、授業担当教育職員の授業中の口頭による周知、又はその他の方法により周知するものとする。

(試験実施上の注意事項)

第6条 受験者は、試験室では監督者の指示に従うほか、次の注意事項を守らなければならない。

- (1) 試験中、学生証を机上に提示すること。
 - (2) 学生証を忘れた場合には、試験が開始される前までに、教務学生支援課において証明書の発行を受けること。
 - (3) 授業科目により座席の指定がある場合には、その指示に従うこと。
 - (4) 許可された物品以外は、机上に置かないこと。
 - (5) 試験中は、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源を必ず切り、使用しないこと。
 - (6) 試験室への入室は、試験開始後30分までとし、遅刻してきた場合の試験時間の延長は認めない。ただし、監督者等の指示がある場合には、この限りではない。
 - (7) 試験中の退室は、試験開始から30分経過後までは認められず、一旦退室した者の再入室は認めない。ただし、監督者等の指示がある場合には、この限りではない。退室した場合は、静粛かつ速やかに試験室から離れること。
- 2 学生証を忘れ、証明書の発行を受けていない者に受験を認めた場合には、監督者等は、試験終了後その者を教務学生支援課に引率し、本人確認を行うものとする。

第3章 大学、学生及び教育職員等に関する事項

(追試験)

第7条 病気、事故、忌引き、その他教務委員会又は大学院委員会が認めた理由により試験を受験できなかった者は、試験終了後1週間以内（入院等の特別な理由がある期間を除く。）に、受験できなかった理由が証明できる書類を添付のうえ、追試験の実施を情報工学部長又は大学院情報工学府長に申出することができるものとする。

- 2 授業担当教育職員は、前項の規定による申出がなされ受理された者について、追試験等の必要な措置を講ずるものとする。
- 3 第1項に規定した理由にかかわらず、授業担当教育職員の判断により追試験等を行うことができるものとする。
- 4 追試験に関する事項は、別に定める。

第4章 以降掲載省略

附 則（最終改正分）

この要項は、令和6年2月28日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

7. 九州工業大学情報工学部及び大学院情報工学府学期末試験要項（追試験）に係る運用について

九州工業大学情報工学部及び大学院情報工学府学期末試験要項（平成 21 年 6 月 24 日情報工学部長及び大学院情報工学府長裁定。以下「要項」という。）第 7 条第 4 項の規定に基づき、追試験に係る運用について、下記のとおり定めるものとする。

記

1. 申出が受理できる理由及び提出書類について

- (1) 要項第 7 条第 1 項に規定する「病気」とは、入院した場合（退院後の自宅療養期間を含む。）又は学校保健安全法施行規則（昭和 33 年法律第 18 号）に規定する感染症（*）の治療が必要となった場合とする。

・提出書類

医師又は医療機関が発行する診断書、入院期間が確認できる病院の領収書等

- * 学校保健安全法施行規則第 18 条第 1 号に規定する感染症とは、インフルエンザ、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱（プール病）、結核、腸管出血性大腸菌感染症、流行性角結膜炎（アポロ病）、急性出血性結膜炎等が該当する。

- (2) 要項第 7 条第 1 項に規定する「事故」とは、学期末試験当日、事故にあった場合又は非常変災等により交通機関が遮断した場合とする。ただし、大学が休講措置をとった場合には、申出は不要とする。

・提出書類

警察が発行する事故証明書、公共交通機関が発行する不通証明書又は遅延証明書等

- (3) 要項第 7 条第 1 項に規定する「忌引き」とは、3 親等内の親族が死亡し、葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事に出席する場合とする。

・提出書類

葬儀日を確認できる会葬御礼、公的機関が発行する死亡日を確認できる書類等

- (4) その他、病気、事故又は忌引きに準ずるやむを得ない理由により、教務委員会又は大学院委員会が承認した場合とする。

・提出書類

理由書（様式任意）の他、情報工学部長又は大学院情報工学府長が指示する書類

以下掲載省略

8. 九州工業大学情報工学部における早期卒業取扱要項

〔平成12年10月25日〕
制 定

最終改正 平成31年2月20日

(目的)

第1 この要項は、情報工学部に在学する学生が、九州工業大学学則（平成19年九工大学則第1号。以下「学則」という。）第30条の2及び九州工業大学情報工学部学修細則（平成8年九工大情報工学部細則第8号。以下「学修細則」という。）第7条第3項に基づき、情報工学部における早期卒業の取扱いに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(早期卒業)

第2 情報工学部に3年以上4年未満在学（休学及び停学した期間を除く。）した学生が、卒業の要件として修得すべき単位を修得し、かつ、当該単位を優秀な成績をもって修得したと認められる場合は、早期卒業をすることができる。

(適用除外)

第3 学則第21条から第24条までの規定により編入学、再入学、転入学及び移籍した者は、早期卒業の対象とならない。

(早期卒業申請の手続き)

第4 早期卒業を希望する学生は、2年次の3月末日までに、別記様式1の早期卒業申請書を情報工学部長に提出するものとする。

(早期卒業における優秀な成績)

第5 早期卒業を行う学生は、次の要件を満たさなければならない。

- (1) 2年次終了時に卒業要件に加算される単位（学修細則第20条及び第21条に規定する単位認定されたものを含む。以下同じ。）を80単位以上修得し、かつ、学修細則第22条に規定するGPAが3.5以上の者
- (2) 3年次前期終了時に卒業要件に加算される単位を104単位以上修得し、かつ、GPAが3.5以上の者
- (3) 3年次終了時に卒業要件単位を満たしており、かつ、GPAが3.5以上の者

(早期卒業の審査)

第6 早期卒業の審査は、教務委員会の審議を経て、教授会で行う。

(卒業研究等)

第7 早期卒業を行う学生の卒業研究については、次のとおりとする。

- (1) 3年次前期終了時に、教務委員会で適格の認定を受けた学生は、3年次後期に特別卒業研究を履修させる。
- (2) 卒業研究については、免除する。

附 則（最終改正分）

この要項は、平成31年2月20日から施行する。

9. 九州工業大学情報工学部の移籍に関する取扱要項

〔平成12年10月25日〕
情報工学部長裁定

最終改正 令和4年12月19日

(目的)

第1 この要項は、九州工業大学学則（平成19年九工大学則第1号）第24条第1項の規定に基づき、工学部に在学する学生が情報工学部への移籍（以下「転学部」という。）をする際の取扱いに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(申請手続)

第2 申請手続は、次のとおりとする。

- (1) 転学部を希望する学生（以下「転学部希望学生」という。）の申請受付期間は、転学部を希望する前年の12月16日から12月末日までとし、別記様式1による申請書に成績証明書を添えて、工学部長に提出のうえ、学長に願い出るものとする。
- (2) 工学部長は、転学部希望学生の転学部について差し支えない場合は、別記様式2による書類を情報工学部長に1月末日までに提出のうえ、学長に願い出るものとする。

(申請資格)

第3 転学部希望学生は、次に掲げる要件のいずれにも該当する者でなければならない。

- (1) 転学部を希望する理由に妥当性があること。
- (2) 年度末に在学期間が2年以上であること。
- (3) 過去に学部若しくは学科間の移籍、又は履修コースの変更を行っていないこと。

(受入れ要件)

第4 受入れ要件は、次のとおりとする。

- (1) 受入れ年次は3年次とする。
- (2) 転学部を許可する学生数は、3年次の受入れ学科の欠員数に、教育に支障のない範囲内で若干名（最大3名）を加えた数とする。

(選考)

第5 選考は、転学部希望学生が志望する受入れ学科において面接を実施し審査のうえ、教務委員会で審議する。

(通知)

第6 判定結果は、申請のあった年度の3月31日までに工学部長及び本人へ通知する。

附 則（最終改正分）

この要項は、令和5年4月1日から施行する。

10. 九州工業大学情報工学部における学科の移籍及び履修コースの変更に関する取扱要項

〔令和2年2月19日〕
情報工学部長裁定

最終改正 令和4年12月19日

(目的)

第1条 この要項は、九州工業大学学則（平成19年九工大学則第1号。以下「学則」という。）第24条、及び九州工業大学情報工学部学修細則（平成8年九工大情報工学部細則第8号。以下「学修細則」という。）第1条の3の規定に基づき、情報工学部に在学する学生が情報工学部における学科間の移籍（以下「転学科」という。）及び学科内の履修コースの変更（以下「転コース」という。）をする際の取扱いに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(申請手続)

第2条 転学科及び転コース（以下「転学科等」という。）を希望する学生（以下「申請者」という。）は、転学科等を希望する前年の12月16日から12月末日までに、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める様式を情報工学部長に提出しなければならない。

- (1) 転学科を希望する学生 別記様式1
- (2) 転コースを希望する学生 別記様式2

(申請資格)

第3条 申請者は、次に掲げる要件のいずれにも該当するものでなければならない。

- (1) 学修細則第1条の2第1項に定めるコースのいずれか一つを履修していること。
- (2) 申請する年度の年度末に在学期間が2年以上であること。
- (3) 過去に他の学部への移籍又は転学科等を行っていないこと。
- (4) 現に所属する学科及び履修コースにおいて、学修細則第8条第2項に規定する進級要件を満たしていること。

(受入れ年次)

第4条 受入れ年次は、次のとおりとする。

- (1) 転学科を希望する場合は、3年次に編入する。
- (2) 転コースを希望する場合は、原則として3年次に編入する。ただし、申請者が現に所属する学科及び履修コースにおいて学修細則第8条第3項に規定する進級要件を満たしている場合は、4年次に編入するものとする。

(受入れ学生数)

第5条 受入れ学生数は、次のとおりとする。

- (1) 転学科の受入れ学生数は、受入れ学科の3年次の欠員数（入学定員に第3年次編入学定員を加えた数に対する欠員数をいう。）に、教育に支障のない範囲内で若干名（最大3名）を加えた数とする。
- (2) 転コースの受入れ学生数は、九州工業大学情報工学部学生の学科及び履修コースの決定に関する要項（以下「コース決定要項」という。）第8条に規定する各コースの受入れ学生数に対する欠員数に、教育に支障のない範囲で各コースが定める人数を加えた数とする。

(選考)

第6条 選考は、コース決定要項第10条の規定に準じて算出した申請者の平均点を参考に、受け入れ学科等において審査のうえ、教務委員会及び教授会で審議することにより行う。この場合において、同条中「類」とあるのは「学科」と読み替えるものとする。

(通知)

第7条 判定結果は、申請のあった年度の3月31日までに申請者へ通知する。

附 則（最終改正分）

- 1 この要項は、令和5年4月1日から施行する。

11. 九州工業大学情報工学部学生の学科及び履修コースの決定に関する要項

平成 30 年 3 月 15 日

情報工学部長裁定

最終改正 令和 6 年 2 月 28 日

(目的)

第 1 条 この要項は、九州工業大学情報工学部学修細則（以下「学修細則」という。）第 1 条の 2 の規定に基づき、学科及び履修コース（以下「コース」という。）の決定の方法について必要な事項を定めることを目的とする。

(対象者)

第 2 条 学科及びコースの決定は、1 年次の学生で次に掲げる要件のいずれにも該当するものを対象とする。

- (1) 年度末に在学期間が 1 年以上であること。
- (2) 過去に学科及びコースが決定していないこと。
- 2 過去に学科及びコースが決定した原級留置（留年）のある 1 年次の学生が再び学科及びコースの決定を希望し、かつ、所属類の教務委員が教育上有益であると認めて許可する場合は、当該学生を前項第 2 号の要件に該当するものとみなし、この要項の対象とするものとする。

(学科及びコースの決定等の時期)

第 3 条 学科及びコースの決定等の時期は、次のとおりとする。

- (1) 志望の申告期限 1 月中旬
- (2) 1 次志望状況の公開（志望者数、決定候補者最低点）1 月末日
- (3) 志望の変更期限 3 月上旬
- (4) 決定の公示 3 月下旬

(申請手続)

第 4 条 学生は、前条第 1 号に定める申告期限までに、所属類に対応する学科及びコース（次条表に定めるものをいう。）の中から志望順に志望の申告（以下「志望申告」という。）をする。

- 2 学生は、前条第 3 号に定める変更期限までは、志望申告の内容を変更することができる。
- 3 前条第 3 号に定める変更期限までに志望申告を行わない学生又は申告内容に不備のある学生は、いずれのコースに決定してもよいものとして取り扱う。

(各類に対応する学科及びコース)

第 5 条 各類に対応する学科及びコースは、別表のとおりとする。

(割振り数)

第 6 条 情工 2 類の学生は知能情報工学科及び情報・通信工学科、又は物理情報工学科及び生命化学情報工学科へ、次の各号に定める人数（以下「割振り数」という。）をそれぞれ割り振る。

- (1) 知能情報工学科及び情報・通信工学科へ合計 9 名
- (2) 物理情報工学科及び生命化学情報工学科へ合計 7 名

2 割振り数は、第2条に規定する学生の在籍者数（以下「現員数」という。）に応じて変更する場合がある。

（各学科の受入学生数）

第7条 各学科の受入学生数は、次の各号に掲げる学科に応じ、それぞれ当該各号に定める数とする。

- (1) 知能情報工学科及び情報・通信工学科 情工1類の現員数に前条第1項第1号に定める割振り数を加え、各学科の入学定員に応じて按分した数
- (2) 知的システム工学科 情工2類の現員数から前条第1項各号に定める割振り数の合計を減じた数
- (3) 物理情報工学科及び生命化学情報工学科 情工3類の現員数に前条第1項第2号に定める割振り数を加え、各学科の入学定員に応じて按分した数

（各コースの受入学生数）

第8条 各コースの受入学生数は、次のとおりとする。

知能情報工学科	データ科学コース	上限45名
	人工知能コース	上限45名
	メディア情報学コース	上限45名
情報・通信工学科	ソフトウェアデザインコース	上限45名
	情報通信ネットワークコース	上限45名
	コンピュータ工学コース	上限45名
知的システム工学科	ロボティクスコース	上限45名
	システム制御コース	上限32名
	先進機械コース	上限54名
物理情報工学科	電子物理工学コース	上限45名
	生物物理工学コース	上限25名
生命化学情報工学科	分子生命工学コース	上限なし
	医用生命工学コース	上限なし

（学科及びコースの決定方法）

第9条 学生の学科及びコースは、第3条第3号に定める変更期限後に、志望申告に基づき、次の方法により決定する。

- (1) 第1志望のコースごとに、次条に規定する方法により決定した順位の上位者（以下「上位者」という。）からコースの受入学生数まで割り当てる。
 - (2) 前号の方法により学科の受入学生数を超えた場合は、前号で割り当てられた学生の学科ごとの上位者から学科の受入学生数まで割り当てる。
 - (3) 前2号の方法により割り当てられた情工2類の学生のうち、知的システム工学科以外の学科に割り当てられた学生の数が割振り数を超えていた場合は、上位者から割振り数まで割り当てる。
 - (4) 第3号の方法により学科又はコースの受入学生数を満たさなくなった場合は、第1号、及び第2号で割り当てられなかった情工1類、及び情工3類の学生から繰り上げて割り当てる。
 - (5) 第1号から第4号までで学科及びコースが決定していない学生は、上位者から順に、受入学生数に達していない学科及びコースのうちで当該上位者の志望順位が高い学科及びコースに割り当てる。
- 2 前項の規定にかかわらず、志望申告を行わない学生又は申告内容に不備のある学生は、前項の割当て後において受入学生数を満たしていないコースへ割り当てるものとする。

(順位付けの方法)

第10条 順位付けは、次のとおり行う。

- (1) 履修した全ての授業科目（教養教育院の履修課程表に定める授業科目及び所属する類の履修課程表に定める授業科目をいう。以下同じ。）の成績評価を基に、次の算式により算出した値（小数第三位を切り捨てたもの。以下「平均点」という。）により順位付けを行う。

$$\text{〈算式〉 平均点} = \{(\text{得点} \times \text{単位数}) \text{の総和}\} / \text{単位数の総和}$$

- (2) 前号の平均点が等しい場合は、修得した基礎科目区分の授業科目の平均点を算出し、順位付けを行う。
(3) 前2号の平均点が等しい場合は、修得した基礎科目区分の授業科目のうち得点の高い10科目の平均点を算出し、順位付けを行う。

2 単位認定された授業科目並びに卒業要件に加算されない授業科目は、前項各号の平均点の計算の対象には含まない。

3 同じ授業科目（既に修得した授業科目並びに学修細則第20条及び第21条の規定により単位認定を受けた授業科目を除く。）を複数履修した場合は、最も成績評価の高いものを第1項各号の平均点の計算の対象とする。

附 則（最終改正分）

この要項は、令和6年4月1日から施行する。

(別表（第5条関係）)

類	対応する学科及びコース	
情工 1類	知能情報工学科	データ科学コース，人工知能コース，メディア情報学コース
	情報・通信工学科	ソフトウェアデザインコース，情報通信ネットワークコース，コンピュータ工学コース
情工 2類	知的システム工学科	ロボティクスコース，システム制御コース，先進機械コース
	知能情報工学科	データ科学コース，人工知能コース，メディア情報学コース
	情報・通信工学科	ソフトウェアデザインコース，情報通信ネットワークコース，コンピュータ工学コース
	物理情報工学科	電子物理工学コース，生物物理工学コース
情工 3類	生命化学情報工学科	分子生命工学コース，医用生命工学コース
	物理情報工学科	電子物理工学コース，生物物理工学コース
情工 3類	物理情報工学科	電子物理工学コース，生物物理工学コース
	生命化学情報工学科	分子生命工学コース，医用生命工学コース